

SAITAMA MUSE FORUM 2020

浦和の文化祭



Saitama Muse Forum

# TAKARABUNE 2024 | 3.27<sup>wed</sup> → 31<sup>SUN</sup>

埼玉県立近代美術館 地階一般展示室 1

## 目次

ごあいさつ……2024年のTAKARABUNE	三浦清史 (SMF代表、建築家)	p 1
出展記録・出展者メッセージ	各出展者 (下記一覧参照)	p 2~45
エントリーシート(夢の共有)について	石上城行 (SMF副代表、彫刻家)	p 46
エントリーシート	各出展者 (下記一覧参照)	p 46~50
会場レイアウト(作品配置図)	長野 恒 (SMF運営委員)	p 51
会場イベントの記録	構成: 中村隆・中村誠 (SMF運営委員)	p 52~53
来場者アンケート集計結果	報告: 中村誠 (SMF運営委員)	p 54~55
SMF履歴書		p 56
漕ぎ出したアートのまつり……変化の波を乗り越え来年のTAKARABUNEへ	三浦清史 (SMF代表、建築家)	p 57
奥付・SMFのミッションと入会のお誘い		p 57

## TAKARABUNE 2024「漕ぎ出したアートのまつり」 出展者・作品名・掲載ページ一覧

No.	作者名(氏名)	作品名(題名)	掲載ページ
1	足澤美香	鉄壁と自由	p2-3, 47
2	イジマフヒト	ダイダラボッチ世界歩行プロジェクト番外編 べったりついた巨人の指紋	p4-5, 47
3	石崎幸治	錯視	p6-7, 47
4	石上城行	大きな人のかたちプロジェクト	p46
5A	加藤典子	生まれ変わるーbe bone again	p8-9, 47
5B	加藤典子	加藤こどもの造形教室+「心の中のアートプラネット+」	p10, 47
5C	加藤典子	アートの素・パントリー 自由創造ワークショップ	p11, 47
6	シミズフローラルデザインスクール	時を辿って	p12-13, 47
7	社会芸術/ユニット・ウルス	野良の藝術2023 大地の鼓動	p14-15, 47
8	SYUTA(三友周太)	誰も来ない展覧会より	p16-17, 48
9	suzu	Dream up	p18-19, 48
10	田中清隆	影を集めて動きだせ	p20-21, 48
11	電子音響ビープルプロジェクト	電子音響ビープルプロジェクト2023-2025活動報告	p22-23, 48
12	中村元	甲辰祭	p24-25, 48
13	中村隆	SMF Project Artworks 2008-2024	p26-27, 49
14	西尾路子	まちがえた欠片と端材による形たちの考察	p28-29, 49
15	はたみき	バースマーク≡ヘビとネコ Birthmark ≡ Snake and Cat	p30-31, 49
16	菱田祐一郎	RECORD_T49 NEO印象派プロジェクトアート	p32-33, 49
17	藤井香 with 菱田祐一郎	今~或いは家族を送り出すことへの考察	p34-35, 49
18	M. HONDA	花だけではない、華を描く。	p36-37, 50
19	みゃうか	くまのきもち	p38-39, 50
20	森久憲生(上尾アートセンター)	「THE archive」 in the Ageo Art Center #2023	p40-41, 50
21	矢花俊樹	巨大昆虫巣くう一旅に誘う虫たち2024	p42-43, 50
22	李函惇(LI HANXUN)	未来に存在している神々と対話する礼器——手	p44-45, 50

## ごあいさつ……2024年のTAKARABUNE

別所沼に建つピアシンスハウスの会からスピンオフしたアートフォーラムが、わたしたちSMF (サイタマミュージアムフォーラム) の出自です。

当初は連携美術館による文化庁の助成をたよりにミュージアムタウン構想の推進、美術館・博物館活動整備事業などを目的に行う事業の実行部隊として活動してきました。

そして2013年、会則を作り、会員を募り、会費を集め、毎月フォーラムを開催し、その決議によって運営する団体として自立します。

翌年、町議会でも使われるという、象設計集団設計による宮代町立コミュニティセンター進修館の不思議な空間の中で「アートのまつり」を開催しました。思い返せばそれがSMFの成人式だったのかもしれませんが。このおまつり、宝船展と名前を変え、今やSMFを象徴するイベントとして成長しました。

十年一昔。

自立してからの10年を機に昨年は宝船をローマ字表記に改め、今年は一昔前の進修館での「アートのまつり」を思い出しながらTAKARABUNEに「漕ぎ出したアートのまつり」とサブタイトルをつけました。「くも」にまいた昨年の夢のかけらを集め、たがいにピースをはめ込むための船出なのかもしれません。

宝船展は実現したいアートプロジェクトの素を夢として自由に語り表現するアンデパンダン形式の展覧会でした。ローマ字になってもその趣旨は引き継ぎます。

美術、デザイン、建築、文学、音楽、ダンス、パフォーマンス、ワークショップ等々。プロ、アマ、経験を問わず、分野も問わず、多士済々の表現でここ埼玉県立近代美術館一般展示室を埋めつくし、一堂に会し、語り合う年に一度のイベントです。

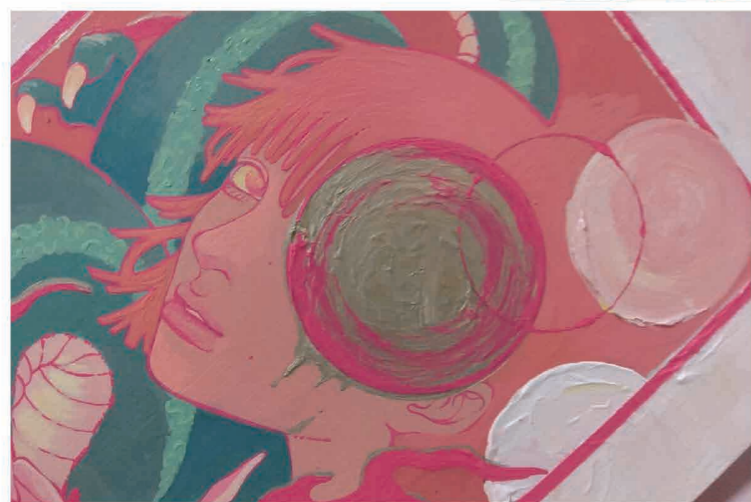
見巧者のあなたも、ちょっと立ち寄ったあなたも、もし会場で隣にいた人に声をかけたら、その人はそこに展示された作品の作家だったかもしれませんし、その作品に心を奪われた鑑賞者の一人だったかもしれませんが、その会話からこれまで見ることがなかった新たな世界が現れてきたのではないのでしょうか。会場では出展者が自作を語るアーティストトークの時間もありました。展覧会は終わりましたが、この小冊子のページを捲りながら、もう一度TAKARABUNEの作品それぞれを振り返り、新たな世界をお楽しみください。

三浦清史 (SMF代表、建築家)

# 鉄壁と自由



【アクリル絵の具】

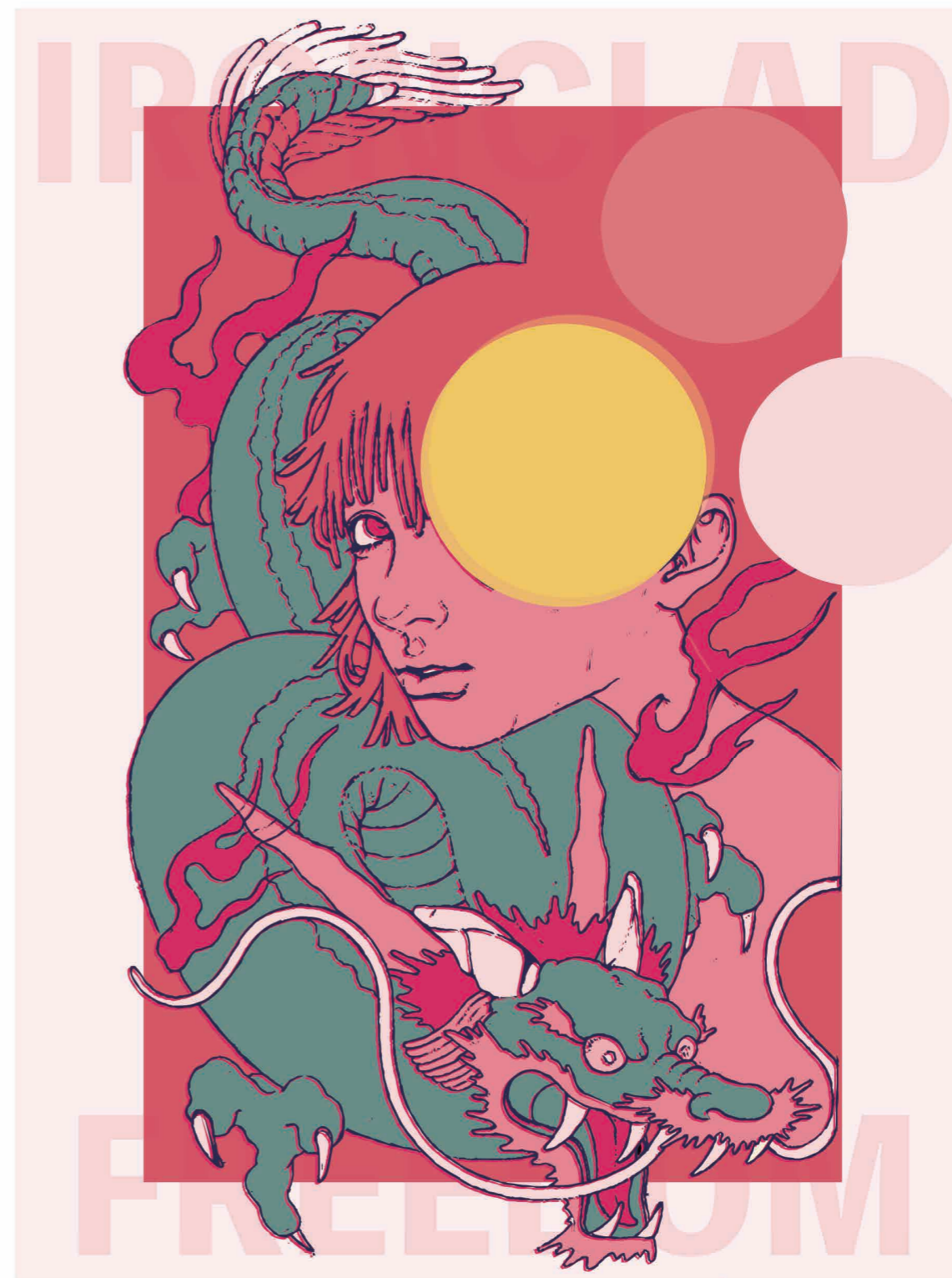


「鉄壁」とは、一般的には、打ち破ることが難しい、もしくは不可能と思われるほど強固な壁を指しますが、ここで言う「鉄壁」とは差別、偏見、貧困など、人々の自由を制限する社会的な構造や制度のことです。私の人生にも壁が立ちはだかり、「なぜ私が？」と思うこともありました。

しかしその壁を乗り越え、自由だと思った時に、世の中の不平等や挑戦を乗り越えてきたからこそ、私にしか表現出来ないアートがあるのだと思いました。

この絵のもうひとつの楽しみ方・・・

デジタルとアナログで描いたので、それぞれの良さや雰囲気を見比べる事ができます。



【illustrator】

ひとつの絵にしても、人それぞれ見方や感じ方が違う為アートに正解は無く、自分の中で感じたことが答えなのかもしれません。

# 謎の巨人 来訪か

まア漕タ  
つりトぎカ  
20の出したラ  
24たブネ

令和 六年 三月

巨大な足跡を世界中で発見しまくれば、ダイダラボッチは世界を歩くことになる。すると神話と現代は繋がり、知らない場所同士に関係がうまれ、足跡は聖地化され、賑わう。これがダイダラボッチ世界歩行プロジェクト。



昨年、突如として発見された50メートル近くある巨大な右足跡。足跡から巨人本体への姿や大きさ、動作など様々な想像が沸き立つ。  
(2023.10. 秋ヶ瀬公園 こどもの森)



今回新たに発見された、左手小指と思われる指紋跡がついた7枚組の絵画。直径約3メートル。  
(2024.03. 埼玉県立近代美術館)

ダイダラボッチ  
痕跡相次ぎ発見

実行者  
イイジマ フヒト

# 錯視

# 石崎幸治

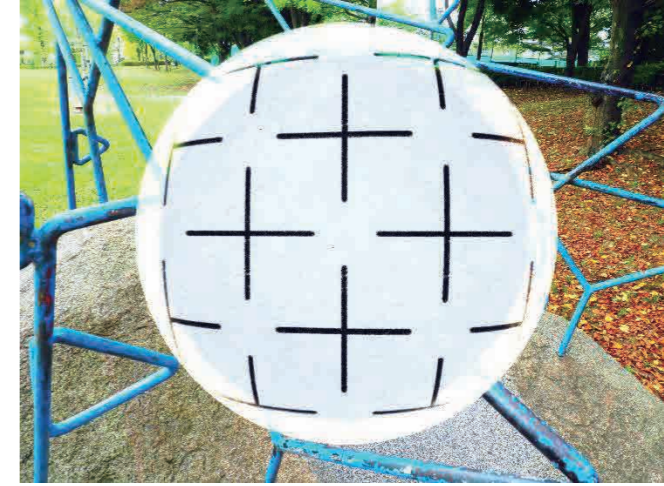
我々が物事を見るときに、事実と違って見える現象を錯視という。長さや形が事実とは違って見えることがある。何も描かれていないのに存在するかのように見えることがある。錯視がなぜ起るか、まだ分かっていないことが多い。現実を理解しようとするときに、理性が及ばない脳の無意識の働きがあるようである。「目に写って脳が見えたと認識しても存在するとは限らない」ということが作品のテーマである。

## 錯視陶器

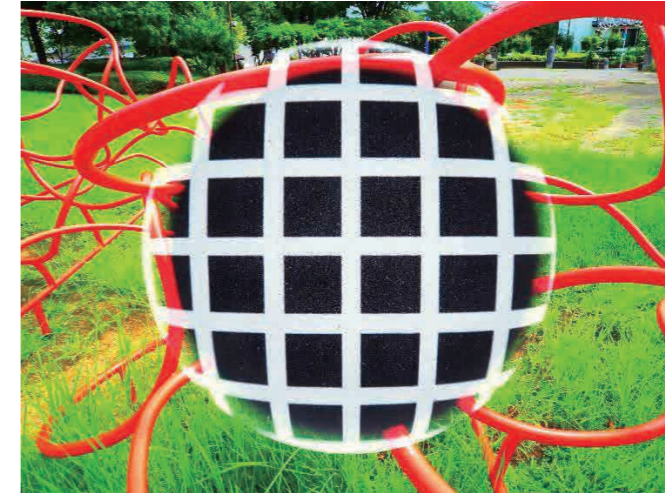


手前の陶器と鏡に写った陶器の色とハートの向きに注目して下さい。

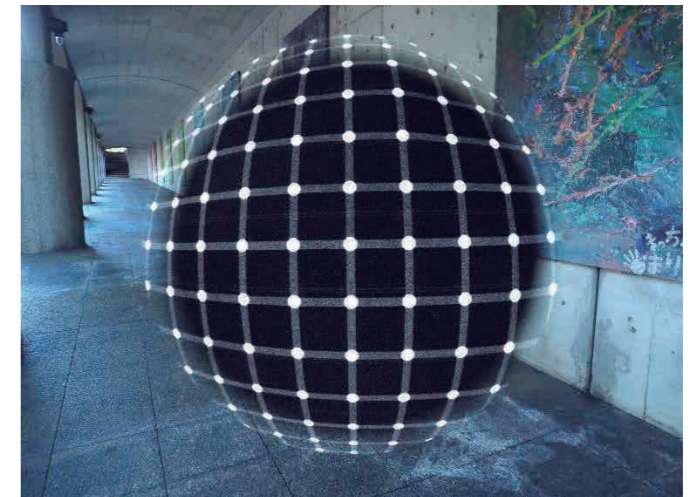
## 錯視写真



エイレンシュタイン錯視 縦線と横線が切れて交わっていない所に、明るい白い円が見える。



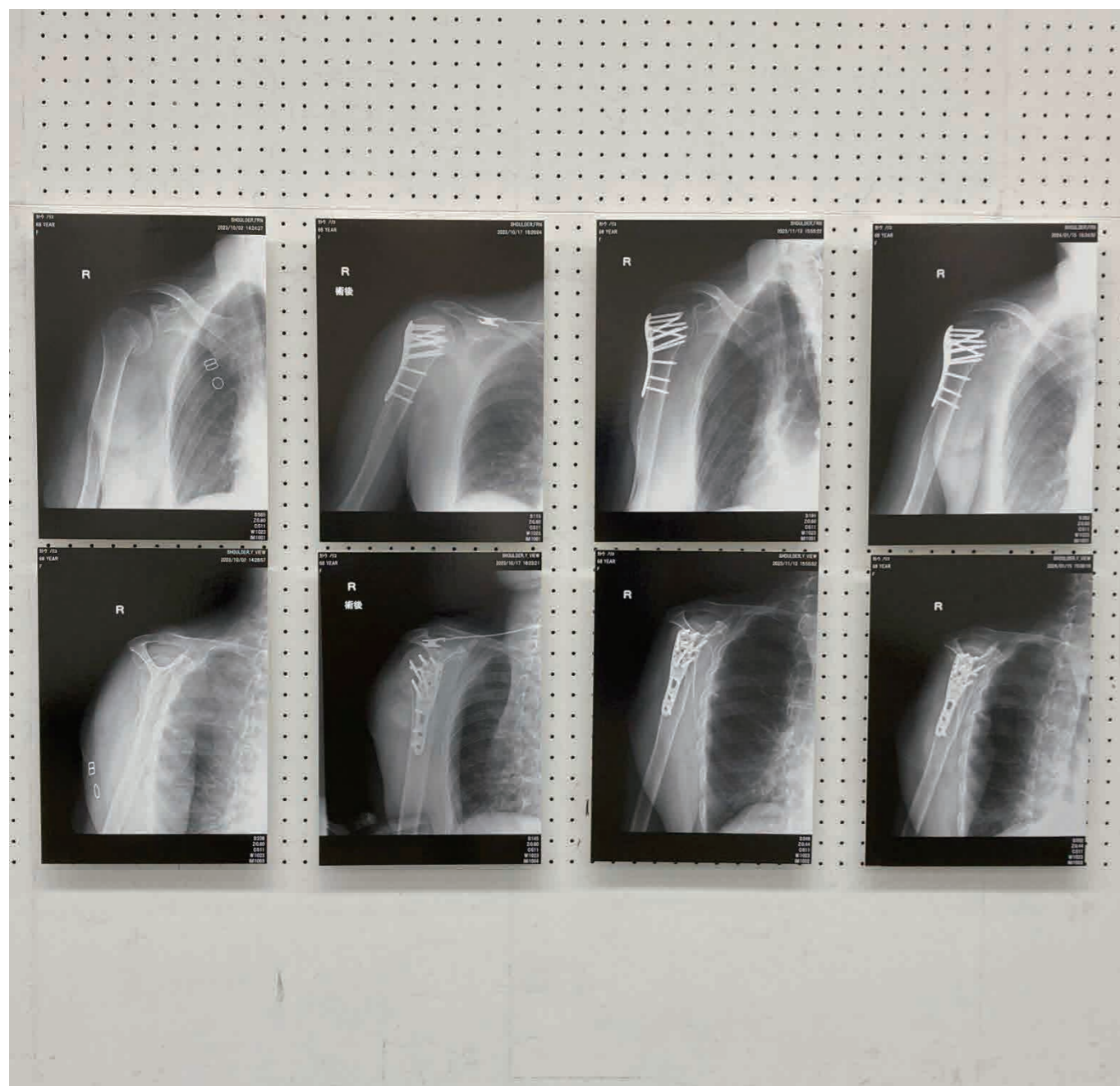
ヘルマン格子錯視 白い線が交わる部分に薄ぼんやりと黒っぽい影がチラチラと見える。



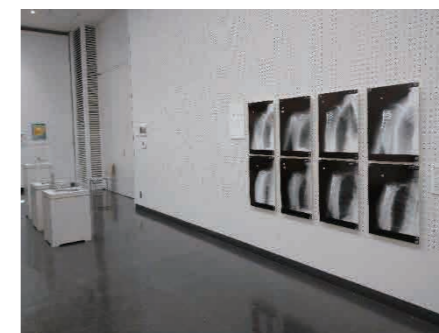
きらめき格子錯視 線が交わる所にある円の中に、黒い点が見えたり消えたりする。

作者連絡先 石崎幸治 (いしぎきこうじ) ikkst@yahoo.co.jp

# 生まれ変わる - be **bone** again



— From October 2, 2023 to January 15, 2024 —



### 加藤子どもの造形教室+「心の中のアートプラネット+」

2023年度に制作した主に小学生の造形作品です。アートプラネットは、心という恒星の周りを回る、造形作品だけで出来た小さな小さな惑星をイメージし、オブジェとしてまた展示台にもなるよう制作した。作品は年齢によってその時々を魅了を放っている。低学年は何が作りたいのかを子どもの感性や言動から汲み取り制作の方向性を決め、中学年以上になれば成長に適したものの作りを促したり、各自がその時々に興味ある造形を納得のいくまで時間をかけて制作している。十分な試行錯誤の時間は心の基礎体力を養うのではないだろうか。また造形教室以外の個人的な活動で行った19人の「型取りオブジェ」の作品も含む。



●作品タイトル左上から「思い出集め」矢澤心美 中3 ・「駅名迷路」兼安岳 小4 ・「チョコレートパンケーキリクガメ」毛塚隆文 小3 ・「マジックボールゲーム」都丸司 小4 ・「Marble dropping craft」谷崎泰成 小6 ・「ソードパズル」谷崎泰成 小6 ・「ジョーロのお家」佐賀陽菜子 小5 ・「海の中」赤松育実 小5 ・「たまごの中み」岡崎春乃 小3 ・「トリケラパーク」都丸司 小4 ・「私の心の中」佐賀陽菜子 小5 ・絵本「鳥五きょうだいのお買い物」毛塚隆文 小3 ・「ベリー」佐賀陽菜子 小5 ・「お米でサラサラレインスティック」外立旺太郎 小1 ・「クルマトリョーシカ」都丸司 小4 ・「風雲ひかる城」篠崎晃瑠 小6 ・小学校土曜チャレンジスクール「型取りオブジェ」・「パフェ」赤松育実 小5 ・会場の様子・アートプラネット・「お城パズル」(ハノイの塔のアレンジ) 毛塚隆文 小3 ・「たまごま」都丸司 小4 ・「団防留城」谷崎泰成 小6 ・「紙バネカー」(参考作品)・「青いバス」兼安岳 小4

### アートの素・パントリー 自由創造ワークショップ (会場イベント)

▶「アートの素(もと)・パントリー」◀とは、埼玉県「令和4年度 社会とつながる文化芸術活動助成事業」を契機に、SMF また加藤典子の活動の一つとして2022年秋より継続して行っているアートプログラムです。個人や団体、地域の商店、企業など各所に眠る未活用の画材や文房具、またアート表現につながりそうな素材を提供していただき、集まった素材を「アートの素」と呼びます。子どもから大人まで多世代を対象にしたワークショップでは、それぞれの表現意欲を尊重し、主体的に取り組めるような楽しい創造の時間と場の創出に努めています。造形のサポートを行う「アートの素マイスター」(造形表現に熟達した人)はそういった視点での見守りを大切に、制作に寄り添っています。今回はたくさん子どもや大人が参加し「アートの素」を存分に使って制作を楽しみました。またお家でも作りたい、ほかのもの作りでも活かしたいという方には「アートの素」をお配りしました。オリジナルのセンスあふれる作品の一部をご紹介します。この活動はこれからも皆さまからの、「社会への贈り物」をアートを通して豊かに活かして行く道を探りながら開いて行きます。



●作品タイトル左上から ・アリ捕獲器・座る人・カエル・銀色のウチワ・カナヘビ大好き・キリン・ドラゴン・クルクルヒラヒラ・結婚12周年祝い・目が透明なウサギ・春の玉入れ・クルクルあたま・プレゼントのプレスレット・シマエナガ・アザラシのベッドとマクラ・おなかすいた・タコとカエルとお花・お家・キャラ搭載飛行機・ワークショップの様子・シヨベルカー

テーマは  
『私の心に残るもの』

今年は、スクール生徒各自の『心の残るもの』『言葉』『写真』などをパネルに組み合わせ、立体に仕上げたものを船のように繋げて漕ぎ出していく様子を作品化してみました。



大槻香織



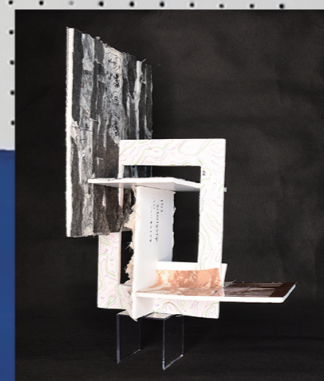
細井洋子



三隅敦子



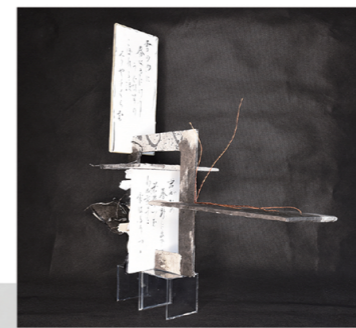
宮野内喜美



清水和乃



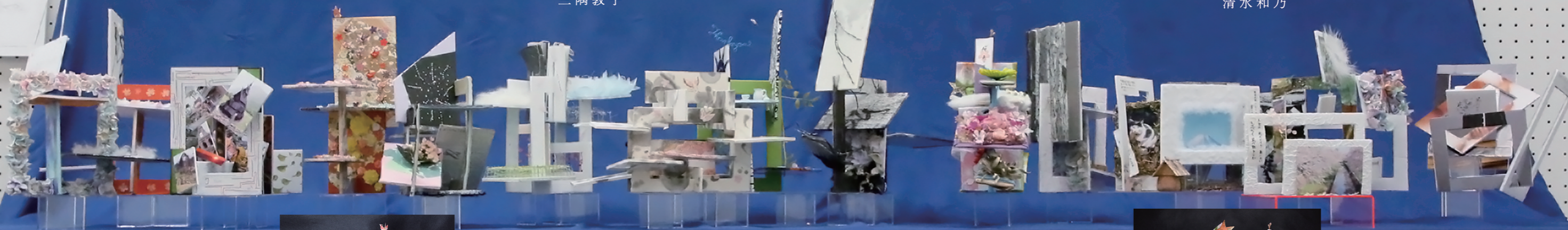
五十嵐泰子



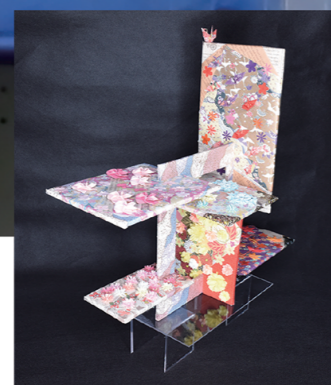
H・H



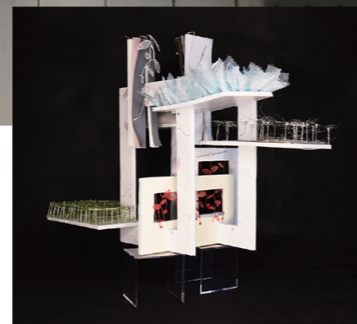
鍾嬌那



榎本幸子



横山奈美



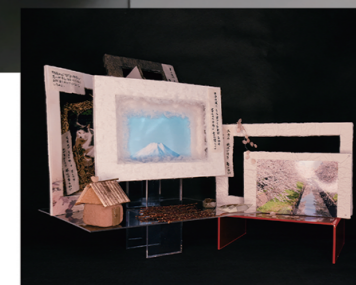
松澤恵美子



鈴木明美



玉木和美



関根千穂





東京を中心とした都市化が進む中、住民と行政の努力によって奇跡的に開発から免れ遺された <見沼・さぎ山地区>そこは生物多様性を活かし先人たちが培ってきた「里山農」による基本的な生き方、在り方を繋いできた地でした。「アート」もまた根源的な私たちの生き方、在り方を見つめなおすものです。「農」と「アート」の根源は繋がってる！「野良の藝術」ではその両者が共存、協働、融合したかたちで祝祭的な場・時間をつくりだします。都市の中に残された見沼・さぎ山を市民の宝物とし、アートにより「街と里山農の人々を繋ぐ」それは世界の潮流をリードすることになるでしょう。

【野良の藝術2023 大地の鼓動】記録

HP : <https://artngo16.wixsite.com/socialart>  
Mail : [ulus.socialart@gmail.com](mailto:ulus.socialart@gmail.com)

参加者: 石井国義、衛守和佳子、大島托、長田淳一、長谷川千賀子、吉田富久一、YAMAMBA、森の製材リゾラ、森の民、蒼浩人、本多慎吾、細田麻央、LINA



●大地の風・ゲルー旅するオブジェ



●シンポジウムYAMAMBA



●大地の狼煙・時空を超えて



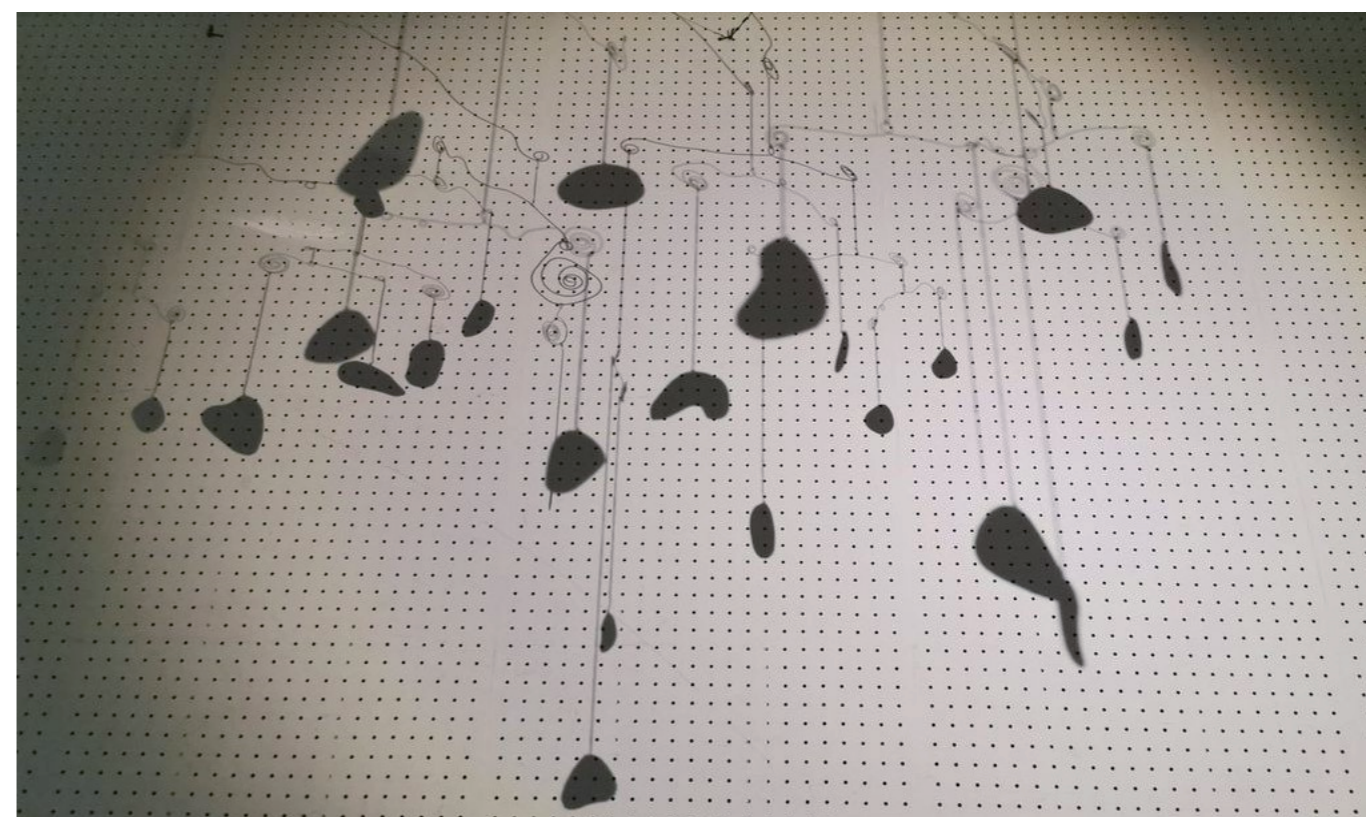
●野良の藝術・現場展





誰も来ない展览会より

コロナが第5類に分類され、日常を取り戻りして約1年が経ち、来日観光客の数も2019年を上回るようになりました。3年の間止まっていた海外作家との交流も始まり、再び世界の大海原へと漕ぎ出す展示として、2020年4月に緊急事態宣言が発出された当時、計画していた国際交流展が中止となった会場で、WEBのみに公開した作品を再構成しました。ミラーシートを100色の糸で吊るしたモビールは、光の反射の白い影と黒い影がゆらゆらと揺れる作品。



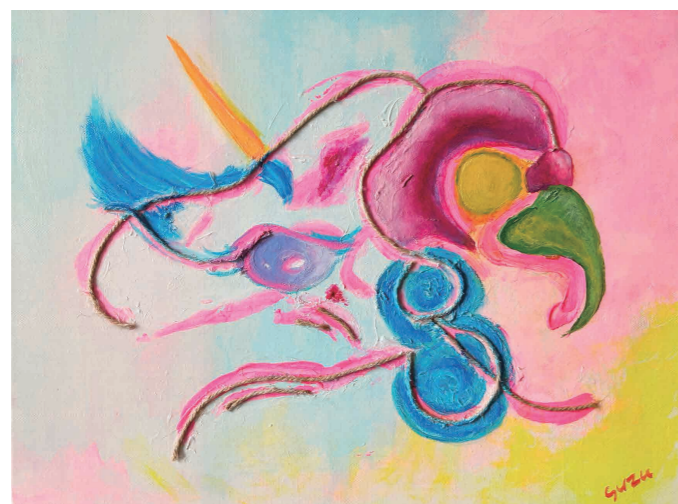
素材：ミラーシート、糸、針金 / 作成年 2024年

# Dream up

君が描いた、たくさんの線。  
そこには、いろんな発見が待っている。  
君が見つけたモノ、見逃したモノ。  
線の先には一体何があるのだろうか？



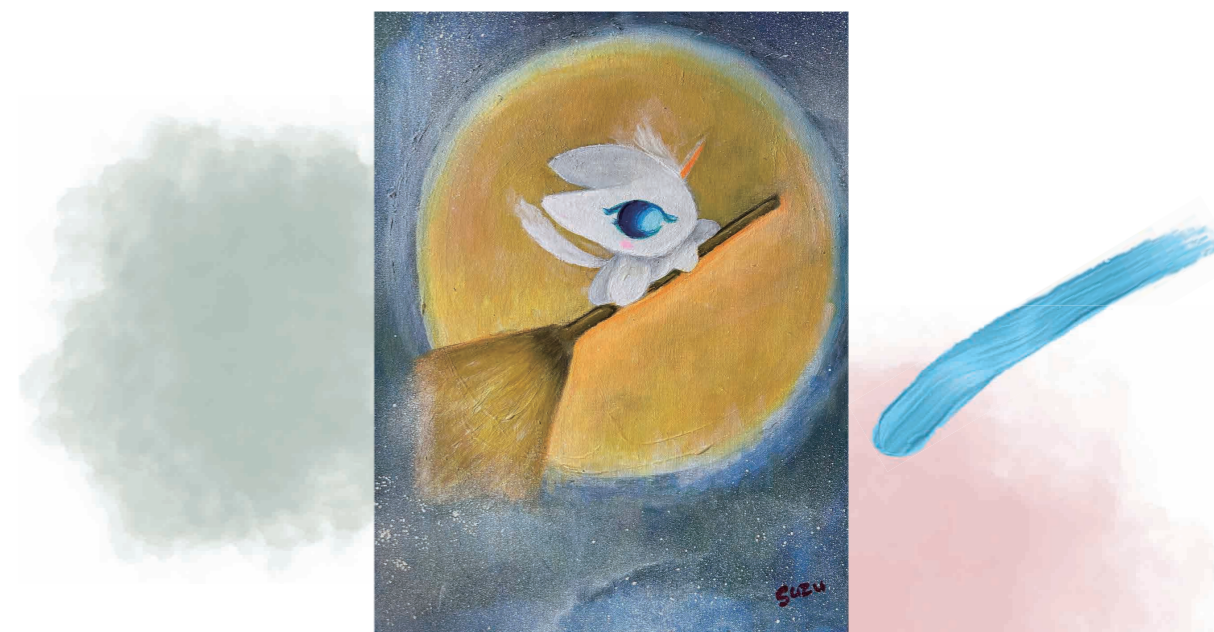
これを元にして下の作品が  
できあがりました ♡



これは落書きの線からうまれた絵。

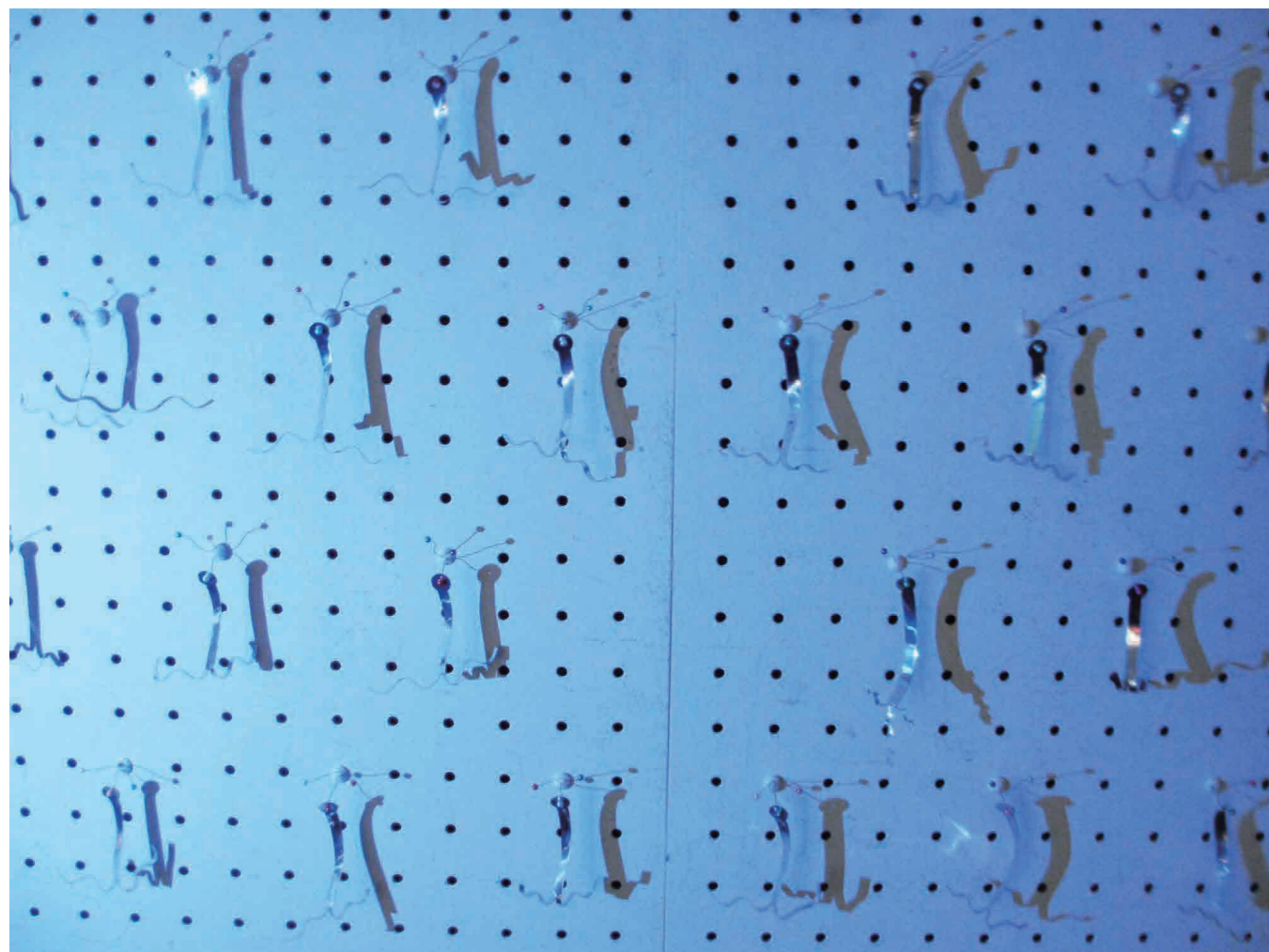


作品になる過程を動画にしてみました！  
コードを読み取って過程をご覧くださいませ。

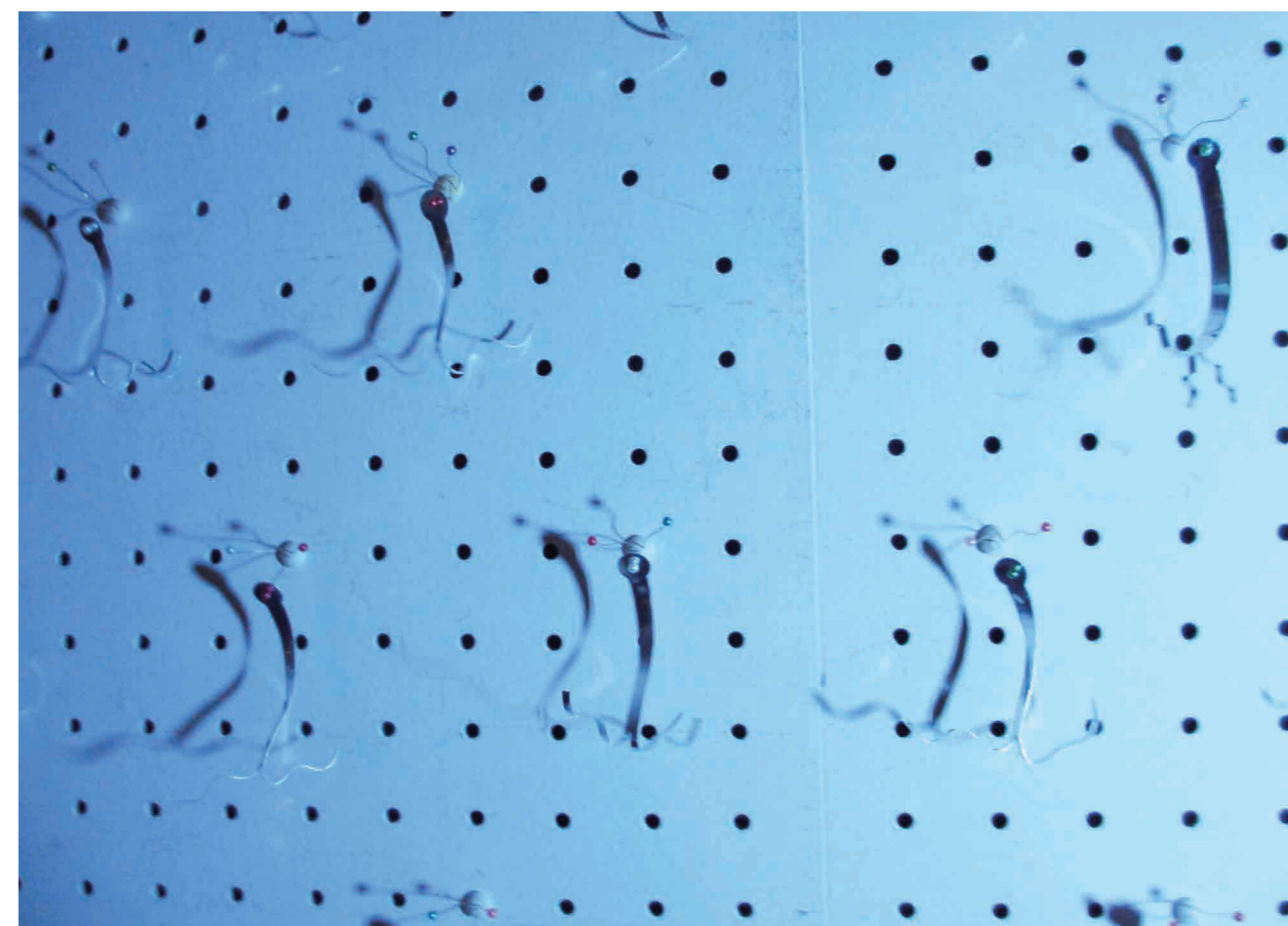


作品を創る際に消されてしまう下絵の線。  
たくさん描いた線から適切だと思う線を選ぶ。けれど  
その瞬間は適切だと思った線も、別の時なら違うものを選んだかもしれない。  
選んだ選択は状況や心情などによって影響され、  
そんな微妙な変化は作品に変化をもたらす。

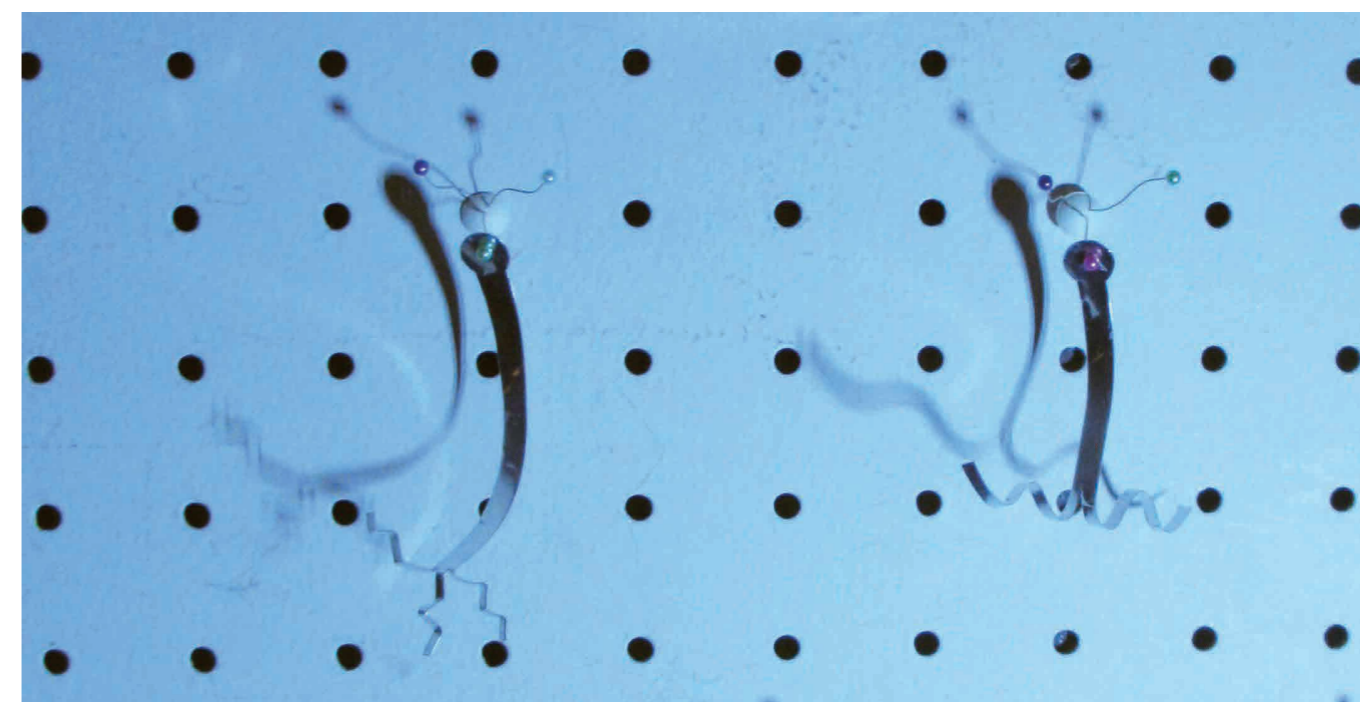
同じモノでも選択や視点が変わるだけで、まったく異なる世界が現れる。  
あなたはそれに気づいているでしょうか？



遊影装置から影光浴。数年に渡り、どのようにして  
光と影を楽しむのかをやっているシリーズ。



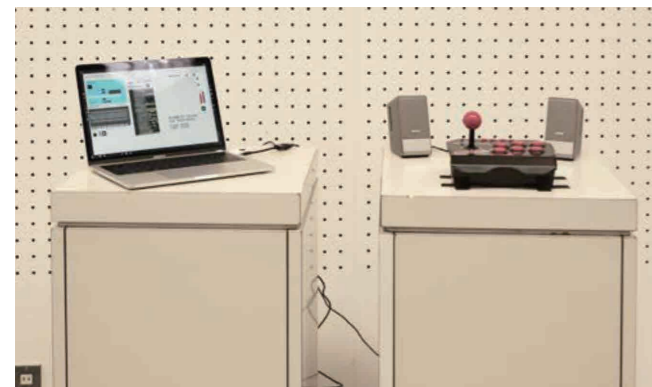
進もうとしている。動こうとしている気配のような……  
何かが伝わるか？



電子音響ピープルプロジェクトは、2022年秋から活動を再開するための準備に取りかかり、2023年から2025年の3年間にわたるプロジェクトを立ち上げました。9月30日・10月1日にBankART Station、10月28日・29日にはゲーティンステイテュート東京でワークショップを実施しました。新井聡真、高野大夢、渡邊愛、大野茉莉、仲井朋子、由雄正恒の各氏と、電子音響ピープル代表の柴山拓郎が講師を務め、延べ112名の皆さんとともに電子音響音楽を作りました。



TAKARABUNE2024ではその活動記録映像と、レバーを回すことで全参加者の完成作品からひとつの電子音響音楽作品が生まれる「パラレルオルゴール」（天光快晴+鈴木怜奈+大野勇人+柿崎瑞貴）を展示しました。



ワークショップを終えたあとは、講師を務めたベテランピープルが、参加者の完成作品や音響素材を用いて事後協働制作作品として8曲の新しい電子音響音楽を完成させ、2024年2月17日と18日にはライブを行い、東京電機大学、昭和音楽大学、東京音楽大学の学生チーム、東京都教育委員会主催「得意な才能を伸ばす教育」に参加した高校生チームによる作品を BankART Stationで初演しました。各日とも、沼野雄司氏（音楽学・桐朋学園大学教授）を司会に迎えたプレトークを行い、日本でのワークショップ講師を務めた作曲家だけでなく、2024年にドイツとフランスで実施するワークショップの講師を務める、ルドガー・ブリュンマー（カールスルーエメディアアートセンター/Herz Labo教授）、石井紘美（作曲家・ドイツ在住）、ベンジャミン・ミラー（作曲家・ドイツ在住）、ナタナエル・ラボワソン+オリピエ・ラマルシュ（作曲家・アコースモニウム演奏家）、ヴァンサン・ロブフ（作曲家・Festival Futuraディレクター）、成田和子（作曲家・同志社女子大学教授）のほか、特別ゲストの小坂直敏の各氏による「ベテランピープル」による作品も上演し、ライブの会場設営された16個のスピーカーから構成されたアコースモニウムから、作品を立体的に空間投影しました。

電子音響ピープルプロジェクト2023-2025関連企画

BankART Life 7 への参加 @BankART Station

- ・サウンドインスタレーション展示（2024.3.14-6.9）
- ・サウンドスケープ・サウンドモンタージュワークショップ（2024.4.21）
- ・ラウンジライブ（2024.5.26）

ワークショップ

- ・ワークショップ@ストックホルム舞台芸術美術館（2024.6.16）
- ・ワークショップ@ZKM(カールスルーエメディアアートセンター)（2024.7.18）
- ・ワークショップ@Festival Futura（2024.8.22）

ドイツ公演@ZKM（2024.9.13）

東京公演@ゲーティンステイテュート東京

- ・シンポジウム（2024年10月12日-28日（アーツカウンシル東京/芸術文化創造助成事業）
- ・サウンドインスタレーション展示
- ・Spacial&Spatial Live（2024.10.26-27）

ワークショップ@BankART Station / with 高野大夢, 由雄正恒, 仲井朋子, 渡邊愛, 柴山拓郎

2023年9月30日の電子音響ピープルな皆さん：■電子音響ピープル：小田浩市, 桜田しょうき, 柴山あかり, 柴山るり, 時得里彩, 松岡尚文, 武石みどり, 伊藤芳雄, 大矢祐嗣, 吉川信雄, 遠藤りな, 阿部尊美, 吉野香子, 吉野翼, 邱玉芬, みな, 小田雅昭, 小田裕子, 桜田みちよ, 柴山真人 ■飛び入り応援ピープル：演野峻行, 村田早苗, 滝沢葉子, 安田亜希子 ■サポートピープル：若林拓海, 小林慧悟, 渡辺亮太, 大野勇人, 高木空, 松本実樹, 本多慎吾  
2023年10月1日の電子音響ピープルな皆さん：■電子音響ピープル：大村倫太郎, 岡田怜子, 染谷怜奈, 染谷優大, 神保玲子, 高田広美, 関根麻郎, 大澤貴一, 長谷川僚也, キョウコウ, 柴山祥子, 平賀りりあ, 塚本信昭, 柴山晴, 大村英史, 大村美保, 岡田あゆみ ■サポートピープル：天光快晴, 松本実樹, 中村陽, 渡辺亮太, 本多慎吾, 鈴木怜奈, 大野勇人 ■BankART 1929の皆さん



ワークショップ@ゲーティンステイテュート東京 / with 高野大夢, 由雄正恒, 新井聡真, 大野茉莉, 柴山拓郎

2023年10月28日の電子音響ピープルな皆さん：■電子音響ピープル：千原世+千原航, 都賀城太郎, 鈴木悠弘, 広沢純子, 邱玉芬, Tetsuto Ozawa, イゼン, Antonia Britt, 田中栄索, 増田涼香, 増田澄恵, 凡, kazu ■サポートピープル：山根 吾朗, 菅谷凌, 天野大介, 岩橋未有, 都留尚歩, 増淵長慶, 中村陽, 松本恭祐, 早田淳平, 本多慎吾, 松本実樹  
2023年10月29日の電子音響ピープルな皆さん：■電子音響ピープル：外川麻未, 福江一起, 加藤美実, Taku, 伏見香蓮, Takuya Shinkado, Anna Shinkado, 長岡律子, 高橋乃恵実, Sarah Lee, 高橋達二, Raiden Gunnarsson, Nomura Karin Gunnarsson Nomura ■サポートピープル：小松匠, 西野俊, 中窪涼介, 天光快晴, 鈴木怜奈, 真中大徳, 五十嵐万裕, 柿崎瑞貴, 早田淳平, 松本実樹, 本多慎吾 ■Goethe Institute Tokyo の皆さん

Spacial & Spatial Live @BankART Station 出演の皆さん・2024年のプロジェクトで協働する皆さん



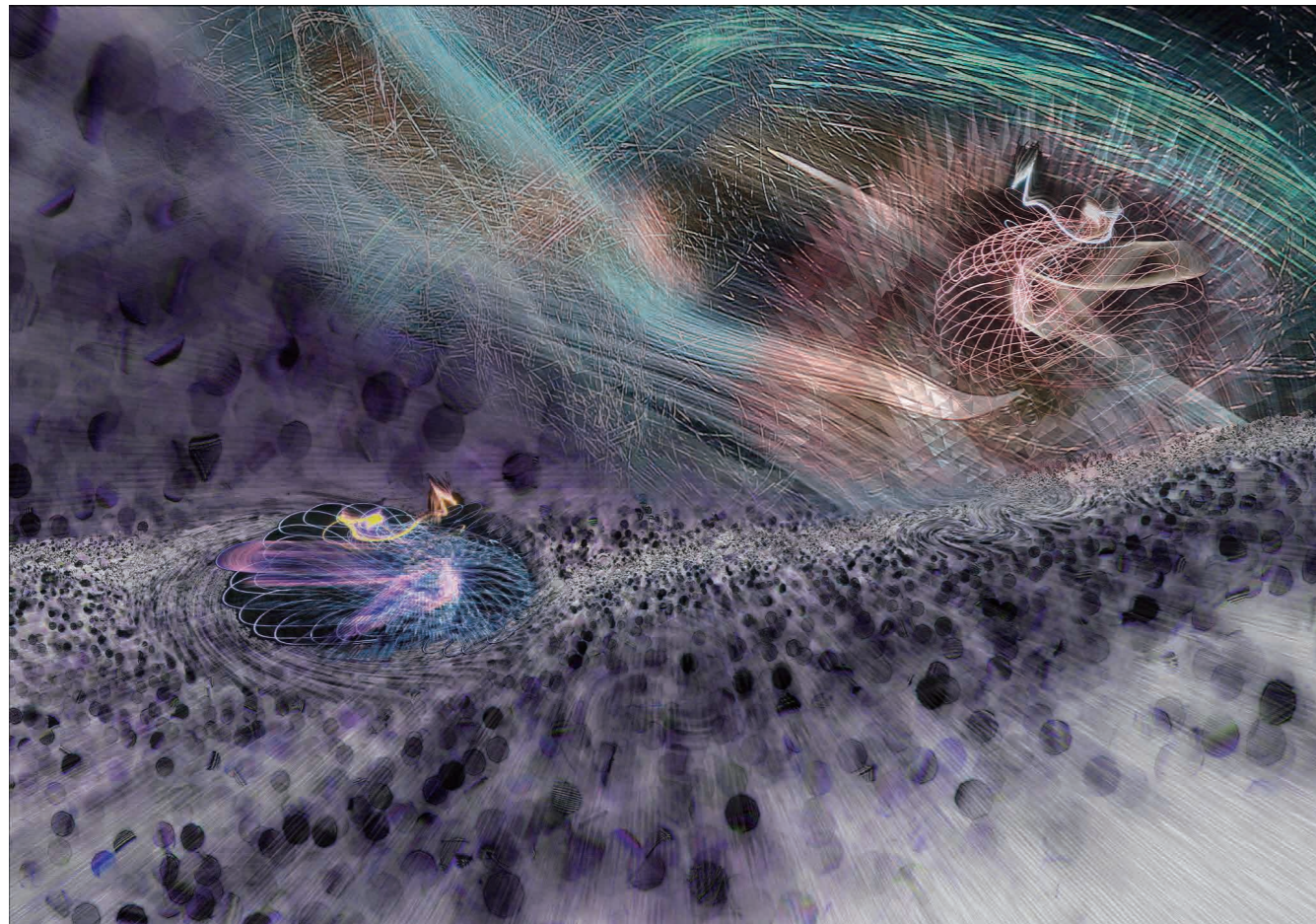
■プレトーク司会：沼野雄司 ■得意な才能を伸ばす教育@東京音楽大学で出会った皆さん：大石仁官, 中川美月, 石川元寛, 石本心夏, 城本咲奈 ■東京音楽大学作曲専攻MMC2023の皆さん：■山本爽楽, 押元晴菜 with 下川一樹, 阿久井美沙, 小川凜乃, 奥野実々, キンシケツ, 畔柳光那, 齋藤奏太, 新名真由子, 西村碧桜, 長谷川 匠, 古川菜緒 ■東京音楽大学作曲専攻MMC2022の皆さん：別府春和 with 川又有希子, 渡辺香乃, 林原美由子, 高橋昇嗣, 橋本朔, 井上彰, 河合俊作, 小金沢拓海 ■昭和音楽大学学生の皆さん：阿部颯志郎, 大内琉雅, 金佳珉, 椎原菜月, 津村琴音, 森光勇多, 渡辺琉尉) ■東京電機大学理工学研究科2021の皆さん：阿部沙也加, 半田悠樹, 橋本亮吾, 小林勝也, 久保田知恵, 間下拓海, 永井都月, 野垣美歩, 鈴木隆潤, 坪谷 岬, 山口大雅, 吉田優理奈 ■東京電機大学理工学研究科2023の皆さん：真中大徳, 副島咲, 木村陽菜, 蛭原崇弘, 中村陽, 齋藤菜那, 伊澤明日香, 奥田京香, 小河将真, 鈴木怜奈 ■東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」の皆さん：渡邊亮太+古林朋也 with 野島龍祐, 大島慶悟, 山根吾朗, 若林拓海, 天野大介, 天光快晴, 岩橋未有, 都留尚歩, 中村陽, 渡邊拓海, 李少鳴, 真中大徳, 柿崎瑞貴, 松本実樹, 本多慎吾, 新井聡真, 小林慧悟, 山本晃輝, 楊奥翔, 小松匠, 西野俊, 横堀岳, 増淵長慶, 中窪涼介, 大野勇人, 菅谷凌, 宮本惇希, 蛭原崇弘, 鈴木怜奈, 五十嵐万裕, 松本恭祐, 早田淳平, 高野大夢) ■東京電機大学学部2年生チームの皆さん：松本拓都, 神谷風樹 田中俊輔, 青木景柗, 下崎創史, 重藤怜, 高木空 ■スペシャルゲスト：小坂直敏 ■2024年のプロジェクト協働の皆さん：ルドガー・ブリュンマー, 石井紘美, ベンジャミン・ミラー, ナタナエル・ラボワソン+オリピエ・ラマルシュ, ヴァンサン・ロブフ, 成田和子 ■スウェーデンで協働する皆さん：アンドレ・ホルツァフェル, デレク・ホルツァー, ヘンリック・フリスク

■主催：電子音響ピープルプロジェクト2023-2025実行委員会 ■協力：BankART1929、ゲーティンステイテュート東京、ZKM | Zentrum für Kunst und Medien Karlsruhe ■助成：アーツカウンシル東京（芸術文化魅力創出助成）、かけはし財団、朝日新聞文化財団、科学研費基盤研究(C)先駆的芸術音楽の多様な人々との共創を目的とした創造的フィールドのデザイン(19K00227)、幾何学的関係に基づく音律統合理論の構築による空間的サウンドインスタレーション制作(20K12126)、東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」 ■後援：先端芸術音楽創作学会、Saitama Muse Forum (SMF)、日本電子音楽協会 (JSEM)、SuperDeluxe ■運営：東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系「作曲・音楽文化研究室」 ■デザイン：(有)アームズ

TAKARABUNE2024 漕ぎ出したアートのまつり

「エントリーシート」 SMF会員 中村 元

くもをつかんで、たがやして、私の夢のかけらをくもに蒔いた、蒔いた、蒔いた。  
 私が蒔いた夢のかけらは、彩豊かに実り、いまかいまかと収穫される「そのとき」  
 を待っているのだ。さあ、そのときが来た。  
 蒔いたものは収穫し、それを供えるために船に載せ、「ハレ」の場に向かうのだ。  
 そこには、アートの神がいて、供え物を広げ、愛でて、会場に集まった人々で華やぐのだから。  
 私が供えた収穫物は、それぞれの雲の耕作地で収穫した唯一無二のもの。  
 それらが集まる「非日常」の宴が始まるのだ。  
 私の収穫物は、カケラを紡いだもので、磨きをかけて仕立て上げたものなのだ。  
 色んな人と出会える「非日常の宴」は、あっという間に楽しい時間が過ぎて、  
 静かに日常に戻っていく。でも、そこで終わりではない。  
 まつりのあと、私は新しいカケラたちと出会えるのだから。



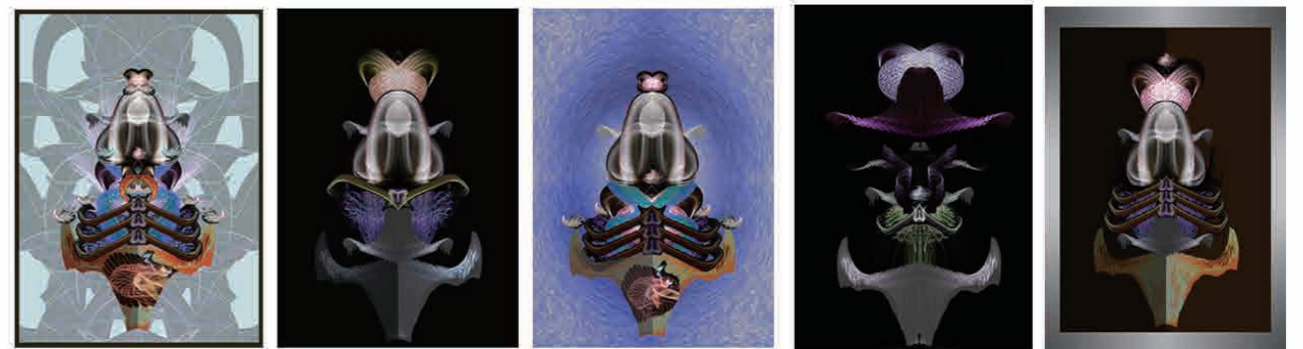
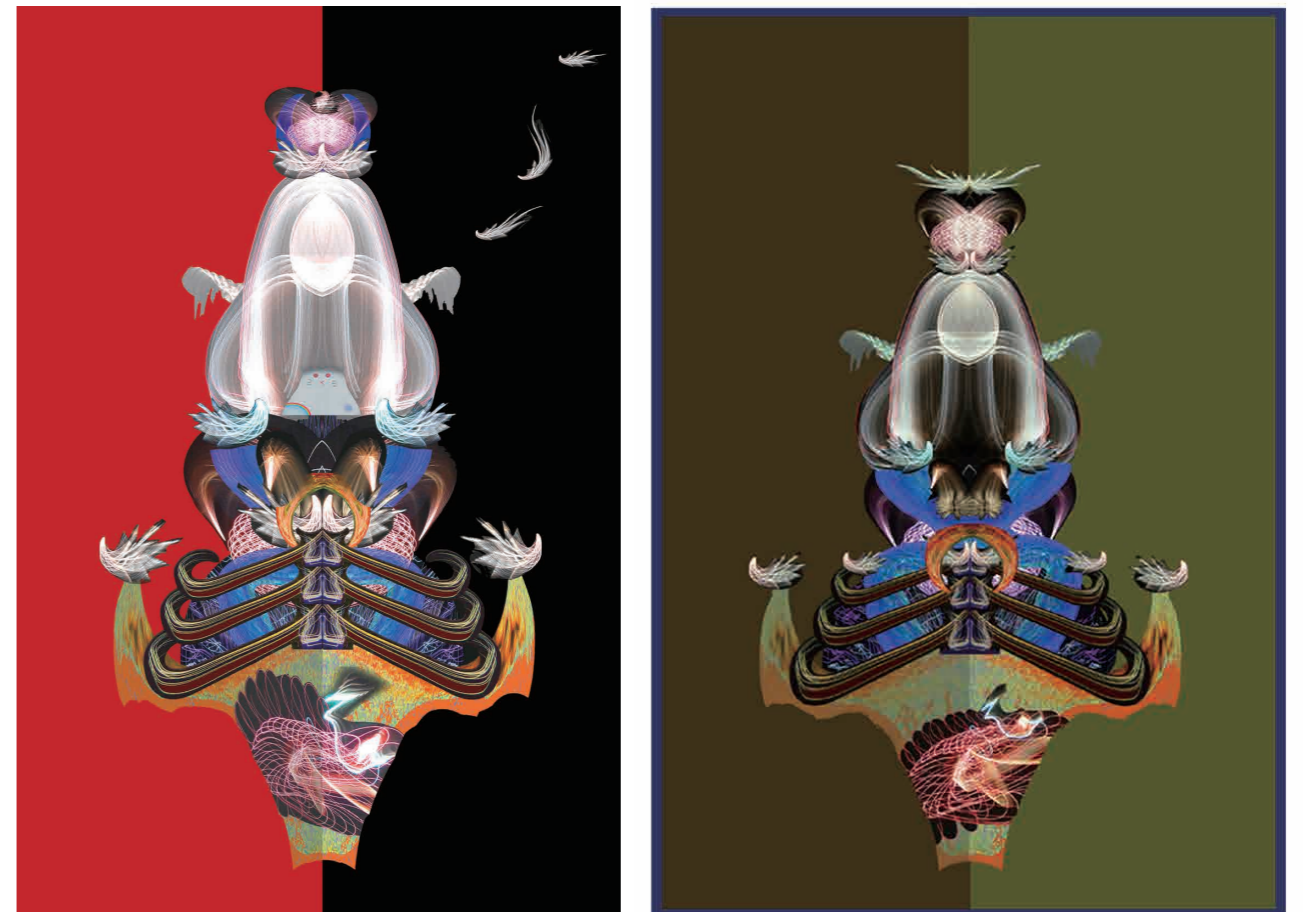
「甲辰・ブレイキン2024」

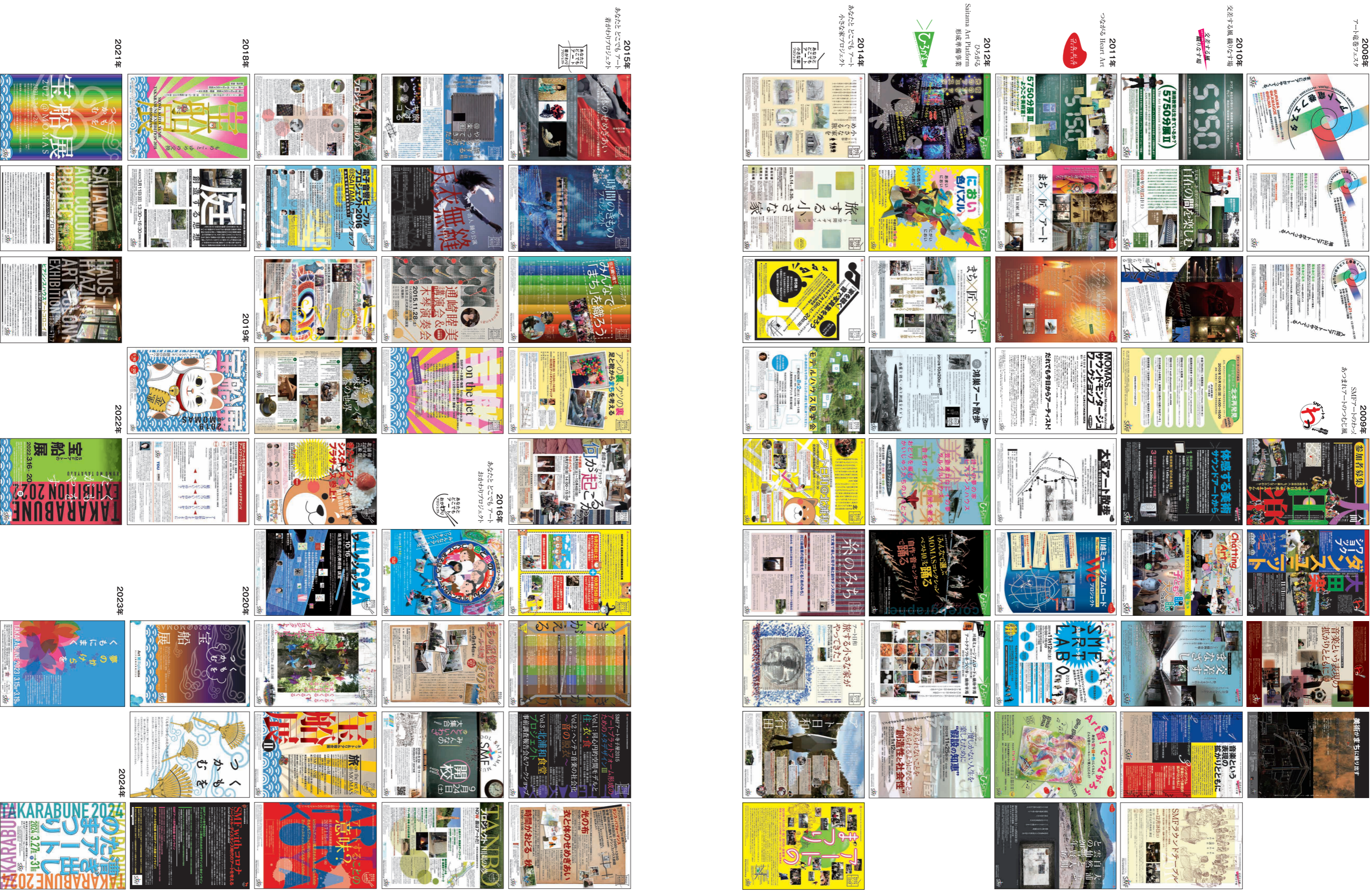
多くの観客の熱気を巻き込みながらブレイクダンスする辰の生命力を表現した。  
 今年の2024年パリ五輪に、正式競技になる「ブレイキン」。選手がみんなイキイキしてて、  
 見ているとワクワクする。

TAKARABUNE2024 漕ぎ出したアートのまつり

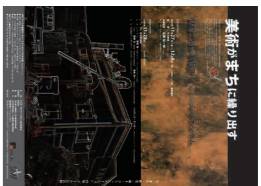
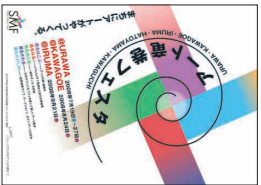
## 「甲辰祭」

1940年の干支は辰だった。あれから十二支が7回めぐり、今年2024の干支は辰。  
 私は時の巡り合わせを勝手に感じていた。今年の干支 60年ぶりの甲辰(きのえたつ)。  
 人生で二度目の甲辰。  
 今年のテーマは、祭にしよう決めてから、幸運を積んだ船をたくさん作って、あ  
 らゆる方向に漕ぎ出した。そんな祭の名を「甲辰祭」と名づけた会場で、  
 思った以上の幸運の力を私は受け取った。

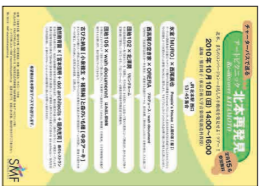




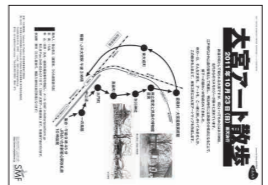
2008年  
アート電音フェスタ



2010年  
交差する風 織りなす地  
交差する風  
織りなす地  
風のなまじり



2011年  
つながる Heart Art  
交差する風  
織りなす地  
風のなまじり



2012年  
つながる  
Saitama Art Platform  
形迹準備事業



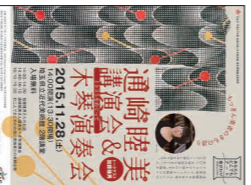
2014年  
あなただとてアート  
小さな家プロジェクト



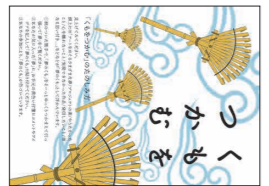
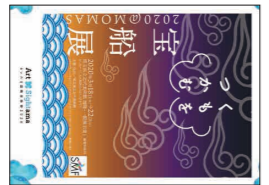
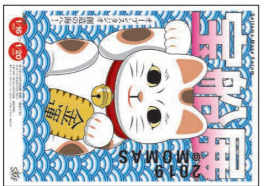
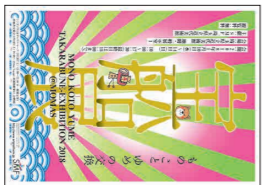
2015年  
あなただとてアート  
着たてのプロジェクト



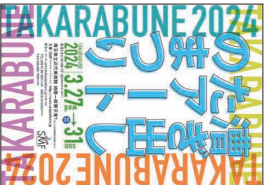
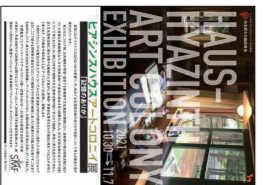
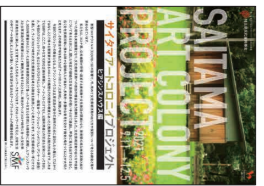
2016年  
あなただとてアート  
おめかしプロジェクト



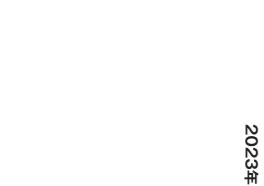
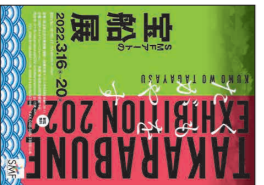
2018年



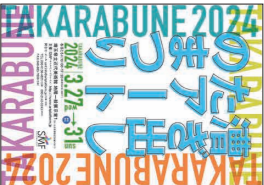
2021年



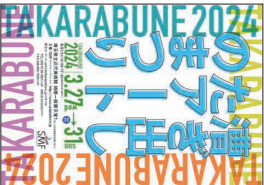
2022年



2023年



2024年



欠片はカケラのままでは居られない



遊ぶのは切れ端、木っ端、それぞれ  
形たち になった、希望と 夢空間  
まさか、せん(戦・船)車 もどき  
お手上げか、威嚇するのか



カケラは たんと いるからね

Enjoy Life



私の左足には、広く赤アザ（血管腫）があります。  
 生まれつきのアザです。痛みはありません。  
 身体に支障はありません。見た目だけの問題です。  
 小さい頃からずっと、ずっとコンプレックスでした。  
 もしも、私がヘビだったら、柄のあるヘビ。  
 もしも、私がネコだったら、ぶちネコ。  
 誰も私にアザがあるなんて、指摘しないでしょ。  
 アザに気付くこともないでしょう。  
 そんな世界だったらいいのにな…。  
 考え方を変えてみようと思います。  
 私は、すでに生まれつき、アートを持っているんだと。  
 私の身体は、それ自体がアートなんだと。  
 アザを隠すのではなく、向き合いながら。  
 自分の不完全さを完全に受け入れられなくても、受け止めて生きたい。  
 I have a red bruise (angioma) in a wide area on my left leg.  
 It is a birthmark. There is no pain. There is no problem with the body. It is just a matter of appearance.  
 I have had an inferiority complex for a long time since I was little. If I am a snake, I am just a snake with a handle.  
 If I am a cat, I am just a bicolor cat. I am sure no one will point out that I have a bruise. I am sure no one will not even notice my bruise. I wish it were a world like that.  
 I think I will change my way of thinking.  
 I will try to think that I am already born with art.  
 I will try to think that my body itself is art.  
 I try to face my bruise instead of hiding it.  
 Even if I can not fully accept my incompleteness.  
 I want to live with my bruise.

制作年	2024
制作日数	3日 3 days
材質	写真パネル,油性ペン Photo panel,Permanent marker
「漕ぎ出したアートのまつり」と出展作品の関わり	
「TAKARABUNE 2023 ゆめのかげらをくもにまく」の終了直後から構想していた。ずっと引きずってきたモヤモヤを視覚化した。 I was envisioning it right after the end of "TAKARABUNE 2023 Yume no kakera wo Kumoni maku". I visualized the confused ideas that had dragged on for so long.	
作品制作にまつわるエピソードなど	
バースマーク、生まれた印。ナチュラルなタトゥー。それは、いつも私の足にいて、ただそこにある。それを一度も好きになったことはないけれど。 これが私のストーリー。私のエッセンシャル。生まれた瞬間から、今、そして死ぬまで。私が私であり続けているもの。ずっと認められなかった、まぎれもない私のシンボルです。 私の大切な人たちは、それについて何も言わず私を見守ってくれていました。"好意的無関心"（良い意味で、見て見ぬふり）、に関心を向けてもらえたら嬉しいです。 Birth mark. Mark of birth. Natural tattoo. It is always on my feet, just there. I have never liked it though. This is my story. My Essential. From the moment I was born, now and until I die. This is stuff what continuing to be I. It is an unmistakable symbol of me that has never been recognized. My loved ones were watching over me without saying anything about it. I suggest the idea of "warm uninterested" (in a good way, you pretend to not notice). If you focus on "warm uninterested", I will be happy.	





with ダンス デジタルアート  
 2024年3月31日 会場：埼玉県立近代美術館 B1  
 Dance meets Digital Art  
 振付：藤井香  
 出演：江積志織・海保文江・佐々木春呼・松元日奈子  
 デジタルアート作品：菱田祐一郎

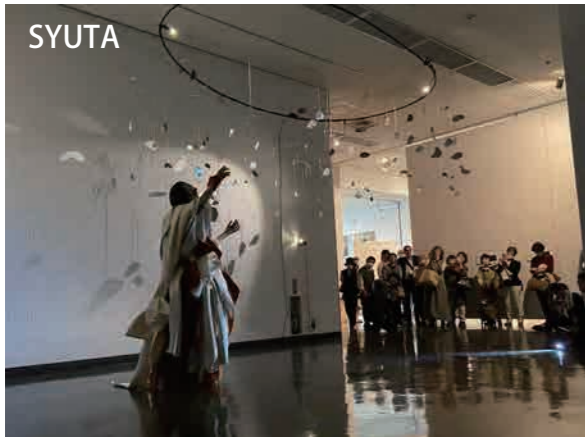
ダンスとデジタルアートのコラボレーション

「時をテーマにした映像作品」と共に「今～ 或いは家族を送り出すことへ」をダンスで考察する試みです



YouTube

パフォーマンス「地母神 YAMAMBA」踊り：蒼浩人・布彫刻：立松節子



踊り & デジタルアート

2024年3月31日 会場：埼玉県立近代美術館 B1

©Makoto NAKAMURA 2024



YouTube

当日たまたま実現したコラボレーション



RECORD\_T49  
 NEO 印象派プロジェクションアート

「時を観る」シリーズのひとつ。黄・青・赤色のドットが動くことで視覚的に色、モアレ模様、奥行きが変化する。「NEO 印象派」のようなデジタルアート作品になった。



YouTube



# Dance meets Digital art

「ダンスと一緒に何かできたらいいですね。」と菱田さんに声をかけて頂いたのが2年前の宝船展です。彼の「時を観る」デジタルアート作品を飽かず眺めていた時でした。

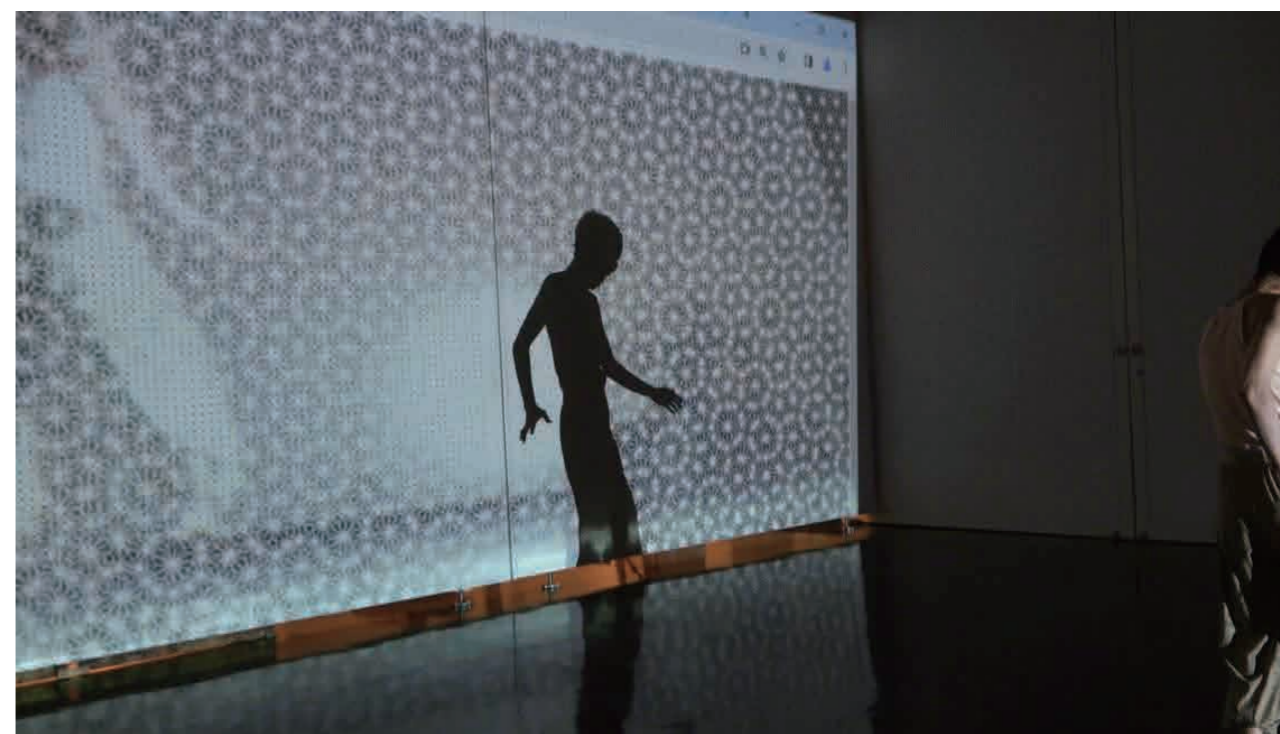
それから2年が経ち、「時」の縛りを受けるダンスのテーマが生まれ、ダンスとデジタルアートのコラボレーションとして出展することになりました。



## 作品解説

抱きしめたい気持ちをグッとこらえ、傷心の娘を送り出してしまったことが、ずっと心残りでした。その時点に戻れるわけもなく、時はそこで止まっています。そこで、「家族を送り出すことへの考察」をダンスにしようと思いました。

このダンスが、菱田さんの『今・今・今を築く』デジタルアート作品と融合したとき、ダンスのモチーフはより鮮明に打ち出され、同時に、時を進めようと踏み出すエネルギーが生まれました。



## プログラム

「今～或いは家族を送り出すことへの考察」

1. 別離について
2. 思い出
3. あなたのいた部屋
4. もしも 離れずにいたら…
5. あの時 あなたを抱きしめておけばよかった

出演：江積志織 海保文江 佐々木春呼

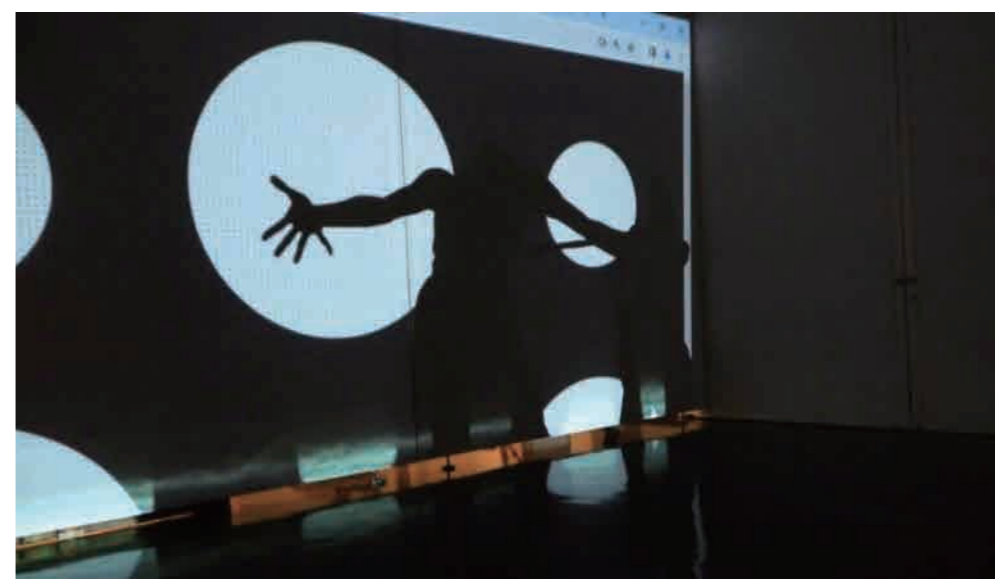
松元日奈子

デジタルアート：菱田祐一郎

振付：藤井 香



← パフォーマンス映像  
映像制作：菱田祐一郎



## [写真]

前ページ上から  
2.思い出  
1.別離について  
5.あの時あなたを抱きしめておけばよかった

ページ上から  
3.あなたのいた部屋  
4.もしも 離れずにいたら…

## 花だけではない、華を描く。

いつもどこかに華が咲いていると思うと嬉しくなってきます。そして華を探しに出掛けたくになります。



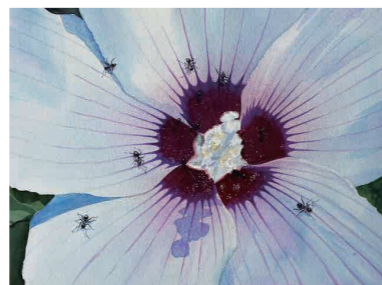
M.HONDA  
Mの水彩画 ブログ

### 冬のシジュウカラ



ハナミズキの実を探しに来たのだろうか。しかし近くに実は確認出来ません。しぶとく残った枯葉と、春に備えて準備している花芽があるだけです。近所のペランダに絡まるツルウメモドキを教えてください。

### 蟻とむくげの花



以前むくげに似た立葵を描きました。むくげを調べるとアオイ科フヨウ属とあり、3種が似ているのが頷けます。因みにこのむくげは韓国の国花らしい。蟻はクロヤマアリ、どこにでもいる見慣れた蟻ですが、関東型は1巣1女王で、関西型は1巣複数女王らしい。



例えば雪が造った枯れ葺の華

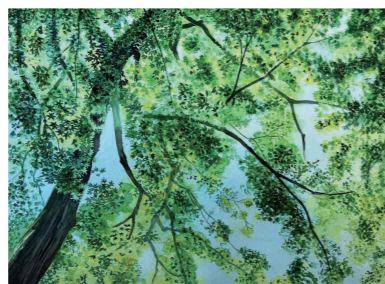
海風と砂が造った華

### 冬の池



出先での雪が降った日の次の朝、名も知らぬ池でじっと水面を睨む白鷺を見つけました。こちらもじっと白鷺を見つけていましたが全く動かず、我慢比べで負けました。

### 木漏れ日



ポタリングで府中から国分寺に行った時、お鷹の道に寄りました。まずは中間地点にあるカフェでひと休み。アイスコーヒーを注文し、テラスに座り見上げた景色がこの絵です。

### 風紋



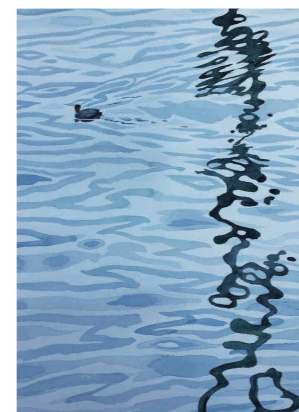
強く冷たい風の吹く浜辺で砂の風紋を見つけました。風と砂が作った自然の造形に不思議を感じます。

### 秋の桜



色付いた桜の葉が虫食いになって青空に透けて、これはこれで綺麗なのですが、調べてみると毒蛾の幼虫が主に食べるらしい。脱皮した毒針毛でも危険らしいので、綺麗なものには棘がある。という事か。

### 揺れる水面



赤レンガ倉庫から山下公園への道すがら、ピア象の鼻付近で遭遇した鴨。鴨は水面に映り込んだ景色を横切り、寿という字を書いた。

### 小笠原父島 小港海岸近く



レンタバイクを麓に停め中山峠まで登ると、結構な汗と結構な達成感を味わえますが、標高110mの看板を見て拍子抜け。しかし景色は最高。左手には南島、右手にはこの海と独特な岩肌が見えました。



秋の季節と虫が造った葉桜の華

波と水鳥が造った水面の華

展示風景

### 瀬戸内の夕暮れ



香川の旅で、その日天候に恵まれず諦めて登った展望台から、偶然に見る事の出来た黄金の夕暮れ。思いがけない自然のプレゼントに感動しました。

### 海



何度も描いている海ですが、今回は自分としては大きめのサイズ。370mm×265mmなので水平線に、ほんの少しRをつけてみました。直線より、少し温かい雰囲気が出ているような気がします。

### 冬の紫陽花



暖冬のせいだろうか。1月なのに紫陽花の花が枯れないで咲いている。花びらが、正確にはがくへん、らしいが色々な色に変化していて面白い。知り合いに存在を教えてください。見つける事が出来た。



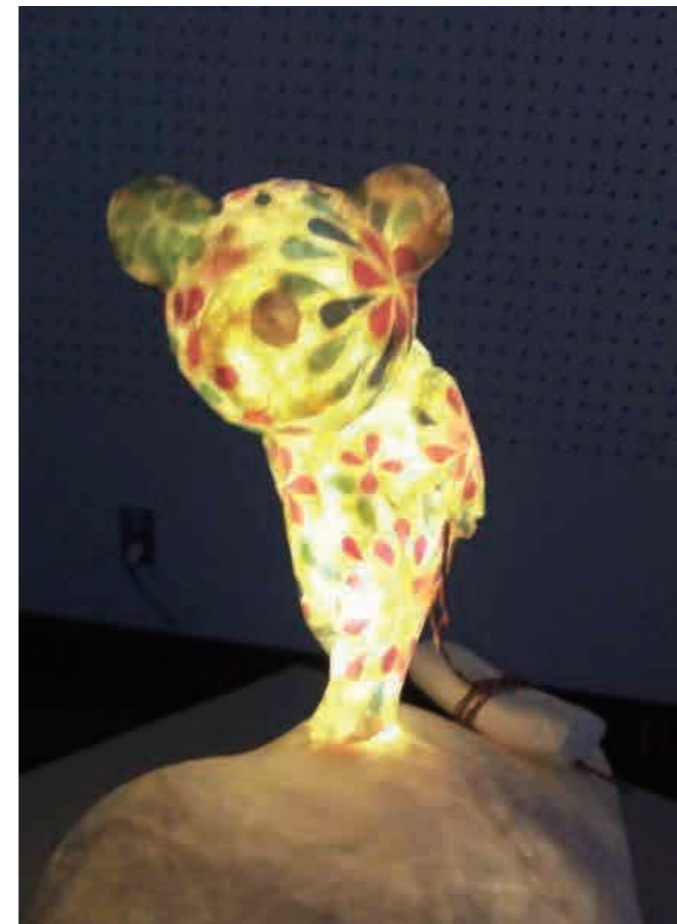
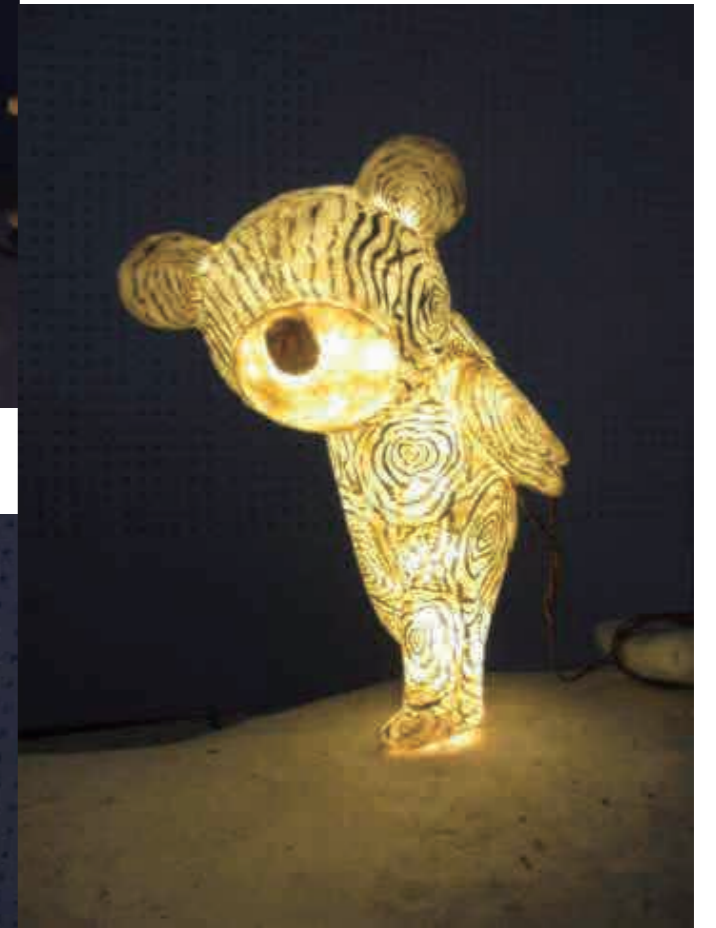
## くまたちは どこへ行くの？

和紙と灯りを使ってくまの  
気持ちを表現した。



空

年輪



花火

上尾でカフェの空き空間と空き時間を活用して上尾アートセンターという団体活動が2年目を終えました。その活動の際に作成した配布物などをアーカイブとして集めて資料として『THE archive 2023』 in the Ageo Art Centerと題して昨年1年間の活動の記録を振り返る記録展示となりました。その中でも代表的な活動を中心に説明いたします。

### 『喫茶芸術領域構築』展

2年目に入りましても継続して行っている、月替わりアートメニューと称して、主に平面作品の展示を行います。

いろいろなアーティストの作品を月替わりで楽しんでいただくプログラムを実施いたしました。

当日の会場には制作したDMや作家さんの作品小冊子などの展示配布を行いました。

### 『上尾ビエンナーレ』2023

『喫茶芸術領域構築』展の作家さんたち全ての作品が最後にまとめて鑑賞できる機会を設けました。複数の作家さんの作品を芸術祭のように楽しんでいただけたらと思い、企画しました。当日の会場には制作したチラシやパンフレット、屋外展示作品など展示や配布を行いました。

### 『人カジュークボックス』美術館出張編

昨年に続き2回目の登場。「ブルーカメレオン」nono(Vo.)tessy(Gt.)というジャズユニットの方と営業中の店内で生BGMでお客様に店内を過ごしてもらおうという企画を行っています。演奏中はMCを行わずジュークボックスのようにセットリストから曲をリクエストしていただくという形になっています。本展示では実演を展示するという試みでした。TAKARABUNE展当日は、ボードに曲のリストに番号をタイトルに貼ってもらうスタイルでリクエストを受け付けました。

### 上尾アートセンター所蔵作品

『世界一黒い絵』『デッサンを拒むデッサン像』

上尾の地元企業コラボから生まれた作品です。世界一黒い塗料と世界一黒い布を使った作品をアートセンターで所蔵しています。光陽オリентジャパンさんに協力していただき実現いたしました。

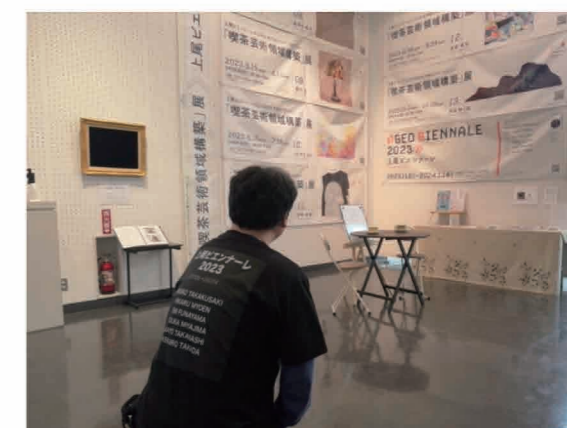
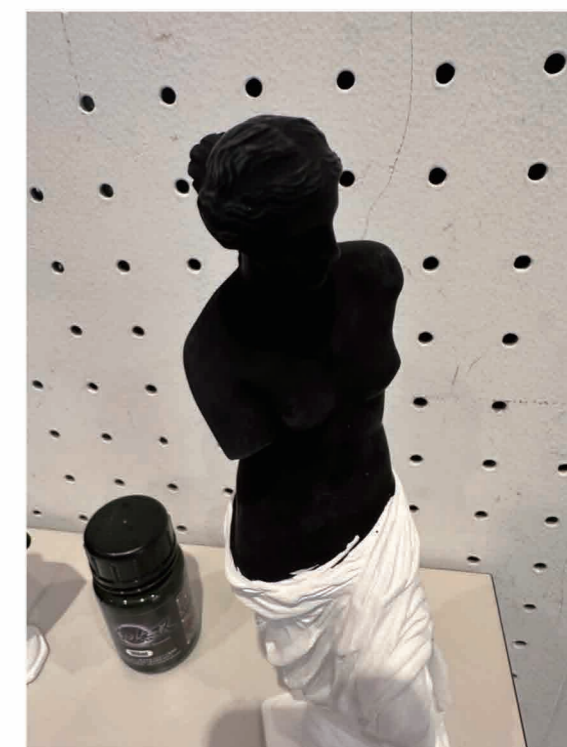
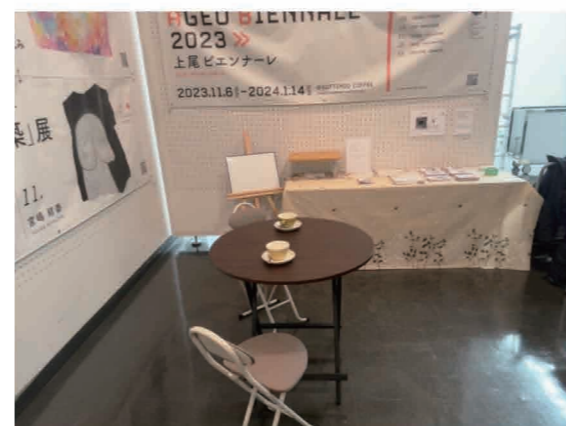
### その他の活動の紹介

2023年は展覧会の会期中、毎週木曜日閉店後の店舗を開放してギャラリーのようにじっくりと作品を鑑賞する時間を設けまして、『ナイトギャラリー』を実施しました。色々な方との出会いの場にもなりました。新企画としてArt Picnicを行いました。お弁当を持参して音楽を鑑賞するスタイルを確立しました。

CAFE&ART AROUND AGEOでは広域展示に挑戦しました。上尾市内のカフェに協力していただき店舗を飛び出して展示を行いました。

カフェを通じてアートを発信、そして集まる。

森久憲生(上尾アートセンター)



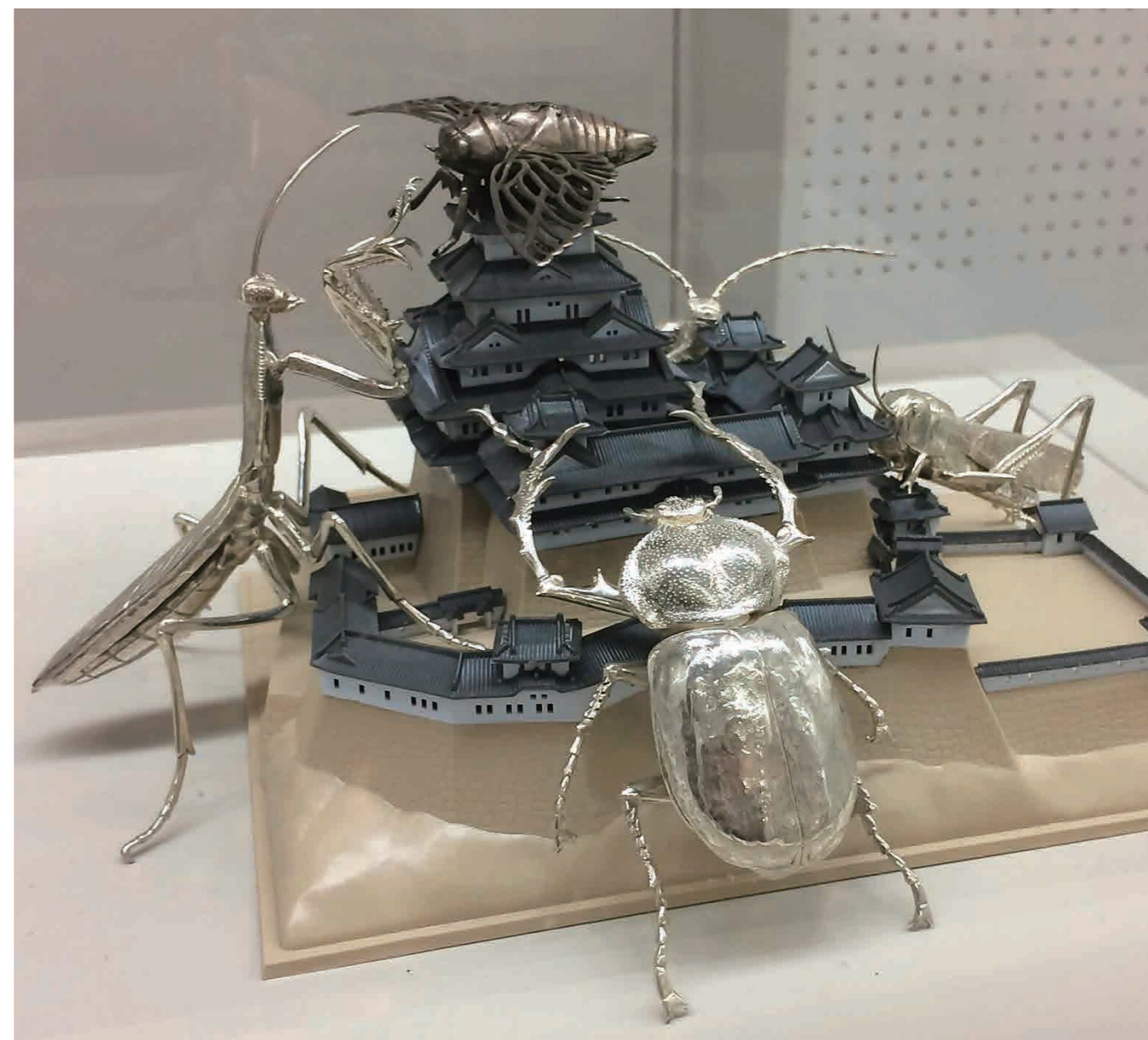
TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり にて、  
新たな制作を模索して提案した。

《巨大昆虫巣くう一旅に誘う虫たち 2024》は、「巨大な昆虫  
を何時か作りたい。。。」という思いから発想したものである。  
彫金という技法で、しかも銀という素材を用い、人間の背丈を  
超えるほどの作品を作ることは今の私にはできない。。

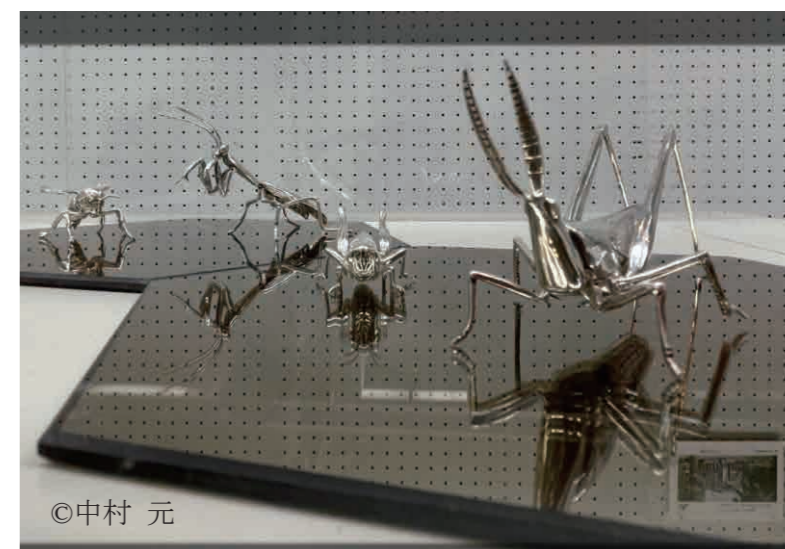
妄想ではあるが、埼玉近美に巣くう昆虫たちの世界を画像  
にしてみた。



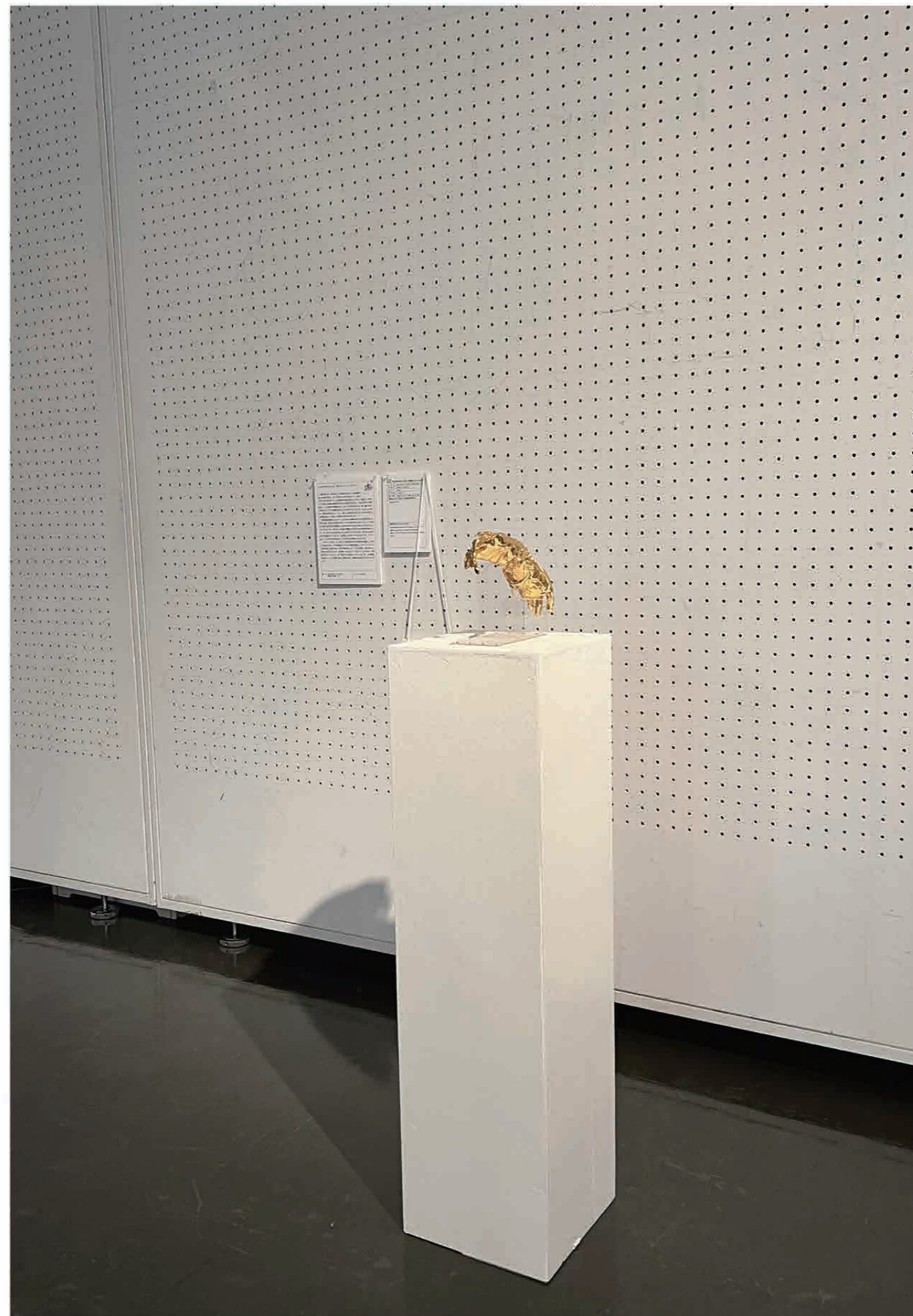
なかなか面白いではないか。どうにかならないものか。。。  
ならば、周りを小さくしてみよう!  
今回の展示は埼玉近美ではなく、姫路城とのコラボ。  
新たな表現の海に漕ぎ出す思いの企画である。



長年制作を続けている《旅に誘う虫たち》は、昆虫を観察しながらリア  
リティを追及してきた。銀で作られた生体昆虫と同じ大きさの作品であ  
るが、鑑賞者が自身の記憶  
を呼び覚ますことがしばしば  
起こる（例えば、幼少の頃、  
実家の裏山で初めてミヤマ  
クワガタを捕った時の興奮  
を!）。それは、時空を超えた  
旅に出ることに相違ない。



©中村 元





## エントリーシート(夢の共有)について

SMF(サイタマミュージックフォーラム)の主催によるアンデパンダン形式(無審査・無償・自由出品を原則とする形式)の展覧会「TAKARABUNE 2024」では、「エントリーシート」と呼ばれるアートのプランをA4サイズにまとめたシートを提示することが義務付けられていて、この取り組みが本展、唯一の縛りとなっています。

そもそも、縁起の良い夢に登場する要素を挙げた「一富士、二鷹、三茄子」という言葉にあやかって、企画した「さんなすび展(2013年1月)」にさかのぼります。新春に実現性を無視した夢のプランを発表し合う機会として「三茄子(さんなすび)」を冠した展覧会が開催されました。当時は、挑戦的なプランを記したシートが多数展示され、ラウンドテーブルでプレゼンテーションするなどの交流を経て幾つかのプロジェクトが実現するという現象が起こりました。このことはアートが強固な館や優れた個人の手元から離れて、個々の市民がその立場や力量に応じて創作し表現するSMFの活動の原動力となった、と確信

しています。

現在は先鋭的なプランというより、展示作品の説明や活動の紹介等その内容が緩やかに変容していますが、そんななかでも相変わらず夢を語っているのが、今回、発表した私のエントリーシートです。これは「大きな人のかたちプロジェクト」というプランで、人が自分自身の手で実現できそうな大きさで最も大きいサイズの人物像を出現させるアート作品の計画(案)となっています。

情報テクノロジーの発展やAI技術等の出現で人間性そのものの価値が揺らいでいる昨今、あえて人が便利な技術に頼らずに手動の道具と知恵と自らの力を頼りに創り上げる人物像の存在に今後(超未来に)希求されるアートの可能性を見ることができないのではないか、と考えて提示しました。このプランの実現に支援をして下さる方々の出現を期待しています。

石上城行(SMF運営委員)



TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

SMF

自分の手で作れるサイズで最大規模の「人のかたち」を考えている。4mくらいの不格好な人がこつ然と現れたら、人はどう感じるだろう。人としての実感が希薄になっていく昨今、あらためて人という存在を問い直す問題提起ができれば幸いです。

素材: 木材 サイズ: W1800 x D2500 x H4000mm

題名: 大きな人のかたちプロジェクト 氏名: 石上城行

TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

SMF

題名: 平等にアートを楽しめる未来 氏名: 足澤 美香

TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

SMF

この足跡は長さ約50メートル、2023年、秋々瀬公園内に実際につけたものだ。この次の歩をまたどこか別の地につけることで、巨人ダイグラボッチを歩かせたい。土地提供者まで。

題名: ダイグラボッチ世界歩行プロジェクト 氏名: イイジマ フヒト

TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

SMF

人間は視覚、聴覚、触覚、味覚と嗅覚の五感を使って外界を認識している。五感の一つでも失ったら不便だが、もし視覚を失ったら日常生活を送るのもままならない。我々は外から得られる情報の大部分を目で見ることによって得ている。目の水晶体から入った光は網膜で結像して、視神経を通して脳に伝えられて我々は見えていると認識する。事実と違って見えたり、何も無いはずなのにいるように見えたりする現象が起こることがある。我々人間が物事を認識する行為の不確かさを表現したいと思って錯視写真を制作した。

題名: 錯視 氏名: 石崎幸治

TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

SMF

題名: 時を辿って 氏名: シミズフーラルデザインスクール

TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

SMF

A 加藤典子作品(壁に写真/ネルを掛ける)

B 加藤こどもの造形教室+ 作品(段ボール製展示台と 備品の展示台2個~3個ほどに展示する)

C 「アートの裏(バックステージ)」自由創造ワークショップ

題名: A「生まれ変わる-be bone again」 B「心の中のアートプラネット」 C「アートの裏(バックステージ)」自由創造ワークショップ 氏名: 加藤典子

TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり

「野良の藝術2023 大地の鼓動」 ―報告書―

2023年10月21日～11月12日

あつたまの芸術家・彫刻家らと共に行われ、アガリ森園地を舞台にした展示・開催されたアート×音楽×食のイベントをオンライン、映像、パフォーマンス等で紹介いたします。

A 大地の鼓動・時空を超えて B 大地の風・ブー・鼓するオブジェ C シンボリックAYAMABA D 野良の藝術展覧場

題名: 野良の藝術2023 大地の鼓動 氏名: 社会芸術/ユニット・ウルス

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF

2020年4月COVID-19に緊急事態宣言が発表され、多くの催し物が自粛となりました。『誰も来ない展覧会』は当時計画していた国際交流展が中止となった会場で、WEBのみに公開した作品になります。コロナが第5波に分類され、日常を取り戻して約1年が経ち、来日観光客の数も2019年を上回るようになりました。3年の閉止していた海外作家との交流も始まり、再び世界の大海原へと潜ぎ出す展示として、『誰も来ない展覧会』を再構成します。



参考画像：誰も来ない展覧会（2020年4月） 素材：ミラー、糸、針金

題名：誰も来ない展覧会より	氏名：SYUTA（三友博大）
---------------	----------------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

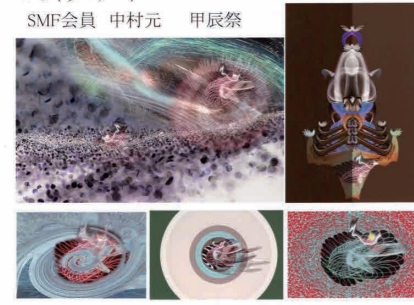
SMF



影光裕 影と光の遊影装置

題名：影を集めて動きだせ	氏名：田中清隆
--------------	---------

TAKARABUNE2024 潜ぎ出したアートのまつり  
エントリースーツ  
SMF会員 中村元 甲辰祭



くもをつかんで、たがやして、私の夢のかけをくもに刺した。刺した、刺した。私が刺した夢のかけは、彩り豊かに実り、いまよりまこと収穫される「そのとき」をまっている。さあ、そのときが来た。刺したものは収穫し、それを供えるために船に載せ「ハレ」の場に供えよう。そこには、アートの神がいて、供えものを広げて、愛でて、会場に集まった人々で賑やぐのだから。私が供えた収穫物は、それぞれの夢の耕作地で収穫した唯一無二のもの。それらが集まる「非日常」の宴が始まるのだ。そうだ、この宴を「甲辰祭」ともつけよう。私の収穫物は、カケラを刺したもので、置きをかけて仕立て上げたものなのだ。色んな人と出会える「非日常」の宴は、あつとり間に楽しい時間が過ぎて、静かに日常に戻っていく。でも、そこで終わりはない。まつりのあと、私は新しいカケラたちと出会うのだから、今から楽しみだ。

SMF

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF



君が描いた、たくさんの線。そこには、いろんな発見が待っている。君が見つけたモノ、見逃したモノ。線の先には一体何が あるのだろうか？

題名：Dream up	氏名：SUZU
-------------	---------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF

DENSHI  
ONKYO  
PEOPLE  
PROJECT

『電子音響ビープルプロジェクト』は作曲家・サウンドアーティストである岡山拓郎が立ち上げた、すこし実験的で、多くの人からしばしば「難解」と受け止められてしまう電子音響音楽を、より多様な人々と共に創る参加型プロジェクトアートです。このプロジェクトは、参加者のみなさんを、音楽の受け手としてではなく、少しヘンテコな音楽を自ら創るアーティストとして、共にその体験を楽しむことを目指しています。

題名：電子音響ビープルプロジェクト2023-2025	氏名：電子音響ビープルプロジェクト
----------------------------	-------------------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF

欠片はカケラのままでは居られない

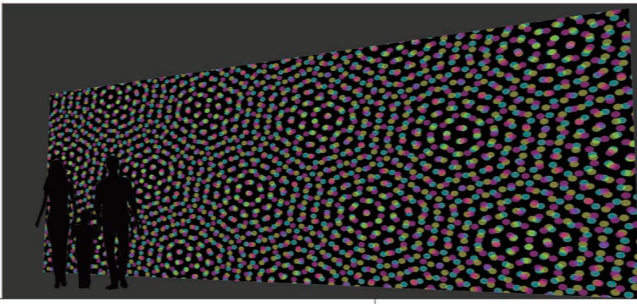
川越城本丸跡 中島 / 2023夏と現代美術展



題名：まちがえた欠片と織村による形たちの考察	氏名：西尾 路子
------------------------	----------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF



題名：RECORD T49 NEODANCE プロジェクションアート	氏名：栗田 祐一郎
------------------------------------	-----------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF

2008年に潜ぎ出した、Saitama Muse Forum。埼玉県各地の美術館・博物館と連携したプロジェクトのアートワークを2枚のポスターにしてみました。

題名：SMF Project Artworks 2008-2021	氏名：中村 隆
-----------------------------------	---------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF

私の左足には、広く赤アザ（血管腫）があります。生まれつきのアザです。痛みはありません。身体に支障はありません。見た目だけの問題です。小さい頃からずっと、ずっとコンプレックスでした。もしも、私がヘビだったら、柄のあるヘビ。もしも、私がネコだったら、赤ネコ。誰も私にアザがあるなんて、指摘しないで。アザに気付くこともないでしょう。そんな世界だったらいいのにな…。考え方を改めてみようと思います。私は、すでに生まれつき、アートを持っているんだと。私の身体は、それ自身がアートなんだと。アザを隠すのではなく、向き合いながら。自分の不完全さを完全に受け入れられなくても、受け止めて生きたい。

I have a red bruise (angioma) in a wide area on my left leg. It is a birthmark. There is no pain. There is no problem with the body. It is just a matter of appearance. I have had an inferiority complex for a long time since I was little. If I am a snake, I am just a snake with a handle. If I am a cat, I am just a bicolor cat. I am sure no one will point out that I have a bruise. I am sure no one will not even notice my bruise. I wish it were a world like that. I think I will change my way of thinking. I will try to think that I am already born with art. I will try to think that my body itself is art. I try to face my bruise instead of hiding it. Even if I can not fully accept my incompleteness. I want to live with my bruise.

題名：バースマークとヘビとネコ Birthmark # Snake and Cat	氏名：はたみき Miki HATA
--	-------------------

TAKARABUNE 2024 潜ぎ出したアートのまつり

SMF

■編付  
藤井 香

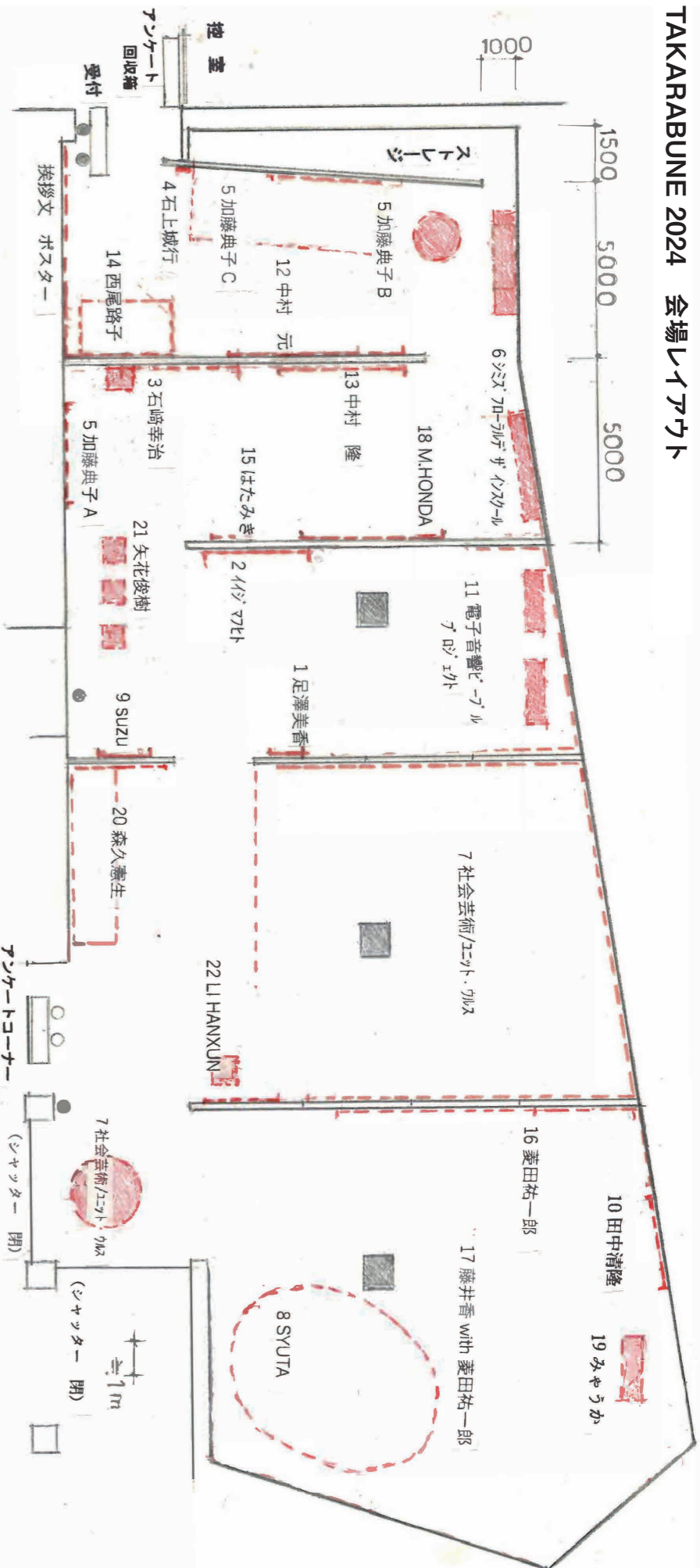
■デジタルアート作品  
栗田祐一郎

■出演  
江橋志織 海保文江  
佐々木尊呼 松元日奈子



写真：藤井香作品「今」、個人より

題名：今～或いは家族を送り出すことへの考察	氏名：藤井 香 with 栗田祐一郎
-----------------------	--------------------



● 数字は出品リストのナンバー ● は受付・監視ポイント

- 1 足澤美香 《平等にアートを楽しめる未来 鉄壁と自由》
- 2 イイジマフヒト 《ダイナミックタッチ世界歩行プロジェクト》
- 3 石崎幸治 《錯視》
- 4 石上城行 《大きな人のかたちプロジェクト》(エントロジーシリーズのみ)
- 5 加藤典子 《A生まれ変わる-be bone again B加藤ごじもの造形教室+「心の中のアートプロジェクト+」Cアートの素・バントリー「自由創造ワークショップ」》
- 6 シズカ・カミザキ 《A生まれ変わる-be bone again B加藤ごじもの造形教室+「心の中のアートプロジェクト+」Cアートの素・バントリー「自由創造ワークショップ」》
- 7 社会芸術/ユニット・カズ 《野良の藝術 2023 大地の鼓動》
- 8 SYUTA 《誰も来ない展覧会より》
- 9 SUZU 《時を辿って》
- 10 田中清隆 《影を集めて動かさず》
- 11 電子音響ビジュアルプロジェクト 《電子音響ビジュアルプロジェクト 2023-2025 活動報告》
- 12 中村元 《甲辰祭》
- 13 中村隆 《SMF Project Artworks 2008-2024》
- 14 西尾路子 《間違えた欠片と端材による形たちの考察》
- 15 はたみき 《パースワークキネヘビとネコ Birthmark Snake & Cat》
- 16 菱田祐一郎 《RECORD\_149 NEO 印象派プロジェクト》
- 17 藤井香 with 菱田祐一郎 《今あるいは家族を送り出すことへの考察》
- 18 M.HONDA 《花だけではない、華を描く》
- 19 みやうか 《くまのきもち》
- 20 森久憲生 (上尾アートセンター) 《[THE archive] in the Ageo Art Center #2023》
- 21 矢花俊樹 《巨大昆虫楽くらー旅に誘う虫たち 2024》
- 22 LI HANXUN 《未来に存在している神々と対話する礼器——手》

by H.Nagano



題名: くまのきもち 氏名: みやうか



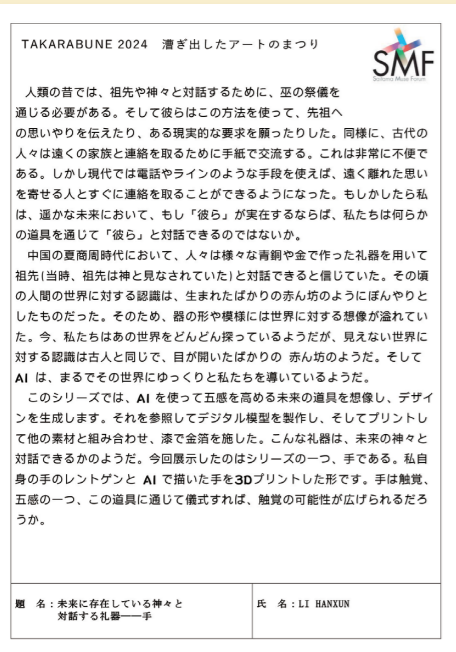
題名: 花だけではない、華を描く。 氏名: M.HONDA



題名: 『THE archive』 in the Ageo Art Center #2023 氏名: 森久憲生(上尾アートセンター)



題名: 巨大昆虫楽くら 氏名: 矢花 俊樹



題名: 未来に存在している神々と対話する礼器——手 氏名: LI HANXUN



### 会場イベントの記録

3月27日(水) 13:30 ~ 13:45	ギャラリートーク:中村 隆	5名参加
3月28日(木) 13:30 ~ 14:10	ギャラリートーク:森久憲生(上尾アートセンター)、足澤美香、 社会芸術/ユニット・ウルス、中村 元、M.HONDA	8名参加
3月29日(金) 13:30 ~ 14:00	ギャラリートーク:みょうか、はたみき、suzu、菱田祐一郎	10名参加
14:00 ~ 15:00	上尾アートセンター『アーカイブ2023』より《人カジュークボックス》 出演:Blue Chameleon nono(Vo.)、tessy(Gt.)	15名参加
3月30日(土) 13:30 ~ 14:10	ギャラリートーク:社会芸術/ユニット・ウルス、イジマフヒト、 電子音響ピープルプロジェクト、矢花俊樹、加藤典子	25名参加
13:00 ~ 14:30	加藤こどもの造形教室+ 《アートの素・パントリー》自由創造ワークショップ	20名参加
14:30 ~ 15:00	社会芸術/ユニット・ウルス《野良の藝術 2023》より 《蒼い鳥 ありがとう》映像:縄文タトゥー 大島 托 映像投影:長田淳一 自然幻想音:森の民 パフォーマンス:細田麻央・蒼 浩人	30名参加
3月31日(日) 12:30 ~ 13:15	ギャラリートーク:シミズフローラルデザインスクール、石崎幸治、 電子音響ピープルプロジェクト、SYUTA、田中清隆	25名参加
10:30 ~ 12:00	加藤こどもの造形教室+ 《アートの素・パントリー》自由創造ワークショップ	午後の部を含め40名参加
13:30 ~ 13:50	藤井 香 with 菱田祐一郎《今~或いは家族を送り出すことへの考察》 振付:藤井香 デジタルアート:菱田祐一郎	65名参加
14:00 ~ 14:30	出演:江積志織、海保文江、佐々木春呼、松元日奈子 社会芸術/ユニット・ウルス《野良の藝術 2023》より 《地母神YAMAMBA》布彫刻:立松節子 踊り:蒼 浩人	45名参加

## TAKARABUNE 2024 漕ぎ出したアートのまつり 来場者アンケート集計結果報告

2024年3月27日

前回と同様に会期中5日間(3月27～31日)会場に2か所のアンケートコーナーを設け、来場者にご記入ご協力をお願いした。各回の来場者数／アンケート回収数(比率%)は、今回2024年が818名／84通(10.3%)、前回2023年が717名／66通(9.2%)であった。今回の来場者数は101名(14.1%)増、アンケート回収数は18通(27.3%)増とそれぞれ大きく伸びている。出展者、関係者の尽力、来場者のみなさまのご協力の賜物であり、まずは感謝を申し上げます。以下、項目ごとに集計結果を報告いたします。

(各項目の回答数は、複数回答可の項目、複数で来られた方の代表が記入している場合、また項目によって無回答の記入者もあり、項目ごとに変動します。)

### A どちらにお住まいですか (回答数82)

「浦和区」が最多で25.6%、近隣区を含め「さいたま市」が52.4%、「埼玉県内」が82.9%、「埼玉県外」が17.1%。県外のうち都内が半数以上と最多であった。

1 さいたま市 43 (52.4%) 浦和区 21、桜区 5、大宮区 3、中央区・南区・西区・見沼区・緑区 各2、北区 1

2 さいたま市以外の埼玉県 25 (30.5%) 草加市 4、川口市 3、川越市・三郷市各 2、他10市町村 各1

3 埼玉県外 14 (17.1%) 東京都 6、神奈川・茨城・千葉・山口 各1

### B ご年代を教えてください (回答数85)

「60歳以上」が43.5%と最多、これに「40代・50代」を加えると76.4%となる。次いで「就学前・小学生」が15.3%。一方で「中・高・大学生」、「20代・30代」はあわせて8.3%ときわめて少なかった。例年の傾向として比較的年齢層の高い来場者が多く、学生を含めて若い世代への発信の強化が望まれる。また土日の「アートの素・パントリー自由創造ワークショップ」来場の親子連れの方方で、アンケートに記載されていない方も多く、小学生以下の来場者実数は、これより多かったと思われる。

1 就学前・小学生 13 (15.3%) 2 中・高・大学生 5 (5.9%)

3 20代・30代 2 (2.4%)

4 40代・50代 28 (32.9%) 5 60才以上 37 (43.5%)

### C 今日は何人で来られましたか (回答数80)

「一人で」が46.3%と最多だったが、「二人で」も43.7%で「三人で」を加えると53.7%と半数を超えた。昨年は「一人で」が62%であったので、呼びかけ合って複数で来られる方が増えたものと推定される。

1 一人で 37 (46.3%) 2 二人で 35 (43.7)

3 三人で 8 (10.0%) 4 四人以上で 0 (0%)

### D この催しをどこでお知りになりましたか (回答数87)

出展者、関係者の口コミ、DM等の成果か「知人の紹介で」が54.0%と半数以上を占めた。次いで「知らなかった」が20.7%であった。今回もポスターは北浦和公園掲示板と美術館内や会場入り口のみの掲示であったので、「ポスター掲示」の8%とあわせると、公園や美術館に来てたまたま入場した方々が4分の1以上と推定される。「SMFホームページ」も11.5%と相応に告知に活用されている。「チラシを見て」は5.8%であったが、今回もチラシ配布は連携美術館やさいたま市及び周辺の主要文化施設限定の限られた配布数であったことを考えると、Aの来場者居住地と合わせて見れば一定の効果はあったと言える。年度替わりのあわただしい時期ではあったが、報道機関への取材依頼も含めて、広報面の強化も今後の重要な課題であろう。

1 知人の紹介 47 (54.0%) 2 SMFのホームページ 10 (11.5%)

3 チラシを見た 5 (5.8%)

4 ポスター掲示 7 (8.0%) 5 知らなかった 18 (20.7%)

### E この会場に来られた目的を教えてください (回答数99)

「展覧会を見に」が50.5%と最多、次いで「知人の作品を見に」が38.4%と昨年の31.8%を大きく上回った。「トーク、ダンス、コンサート、ワークショップ」は、このアンケートでは3.0%と少なかったが、会期全体の各イベントの累計参加者数は累計約290名であり、来場されてこれらのイベントを楽しまれた方は相当数に上ると思われる。

1 展覧会を見に 50 (50.5%) 2 知人の作品を見に 38 (38.4%)

3 トーク、ダンス、コンサート、ワークショップ 3 (3.0%)

4 特にない 8 (8.1%)

### F 今年が8回目ですが、これまでにご覧になったことがありますか (回答数83)

昨年65.2%と最多であった「今回初めて見る」が今年は48.2%と初めて半数を切った。継続的な開催で徐々にリピーターが増えてきていることが、アンケートの記述項目からもうかがえる。出展者と来場者の双方向のコミュニケーションが可能な場に向けてさらに継続・発展が期待される。

1 1～2 回見た 25 (30.1%) 2 3～4 回見た 10 (12.1%)

3 ほぼ毎回見ている 8 (9.6%) 4 今回初めて見る 40 (48.2%)

### G TAKARABUNE (宝船展)がプロ、アマやジャンル、団体の垣根を越えて夢を共有する場だとご存知でしたか (回答数77)

TAKARABUNEが、団体の構成員がそれぞれの作品を持ち寄って展示する通常の美術団体展とは異なり、誰もが参加可能で、絵画や彫刻に限らず、それぞれの多様なアートの夢を共有する場であることを、アピールする設問である。「知っていた」が昨年の9.1%から27.3%と大きく増えたことは継続の成果であろう。もっとも「知らなかった」が、まだ3分の2近くを占める。今後も継続を図って理解者を増やしていきたい。

1 知っていた 21 (27.3%) 2 何となく聞いたことがある 2 (2.6%)

3 知らなかった 50 (64.9%) 4 よく分からない 4 (5.2%)

### H 今回の展示をご覧になっていかがでしたか (回答数79)

「とてもよかった」(58.2%)と「よかった」(38.0%)で96.2%と、たいへん好意的に評価していただいた。さまざまなプロジェクトを含めて多種多様な作品、個性的な表現や実感のこもった作品づくりに、多くの来場者が共感してくださいました。アーティストトークも作品に近づく重要な手がかりとなった。一方で展示構成の若干のアンバランスを指摘するご意見もあった。

1 とてもよかった 46 (58.2%) 2 よかった 30 (38.0%) 3 あまりよくなかった 2 (2.5%) 4 よくなかった 0(0%) 5 その他 1 (1.3%)

(1) とてもよかった：・個性的で多種多様で楽しめました。／いろいろな作品を見せて頂いて楽しかった／多彩な作品やパフォーマンスで美術の愉しさが伝わってきました。／色々な表現を拝見できておもしろかった／いろいろな作品を説明してくださいだったので、よく分かりより楽しめました／発想がおもしろかった。／作品に作者のコメントがあって意図?が分かって良かった

(2) よかった：・バラエティに富んで多種／色々な表現を見ることができて楽しく拝見させていただきました／会場後半部分の作家達の作品はとてもよかった。前半部にもうすし大がかりな平面が欲しかったですが／壁が多いかな、もっと空間を使いきれたらよいのかな(感想です)／子供達がアートに触れることが出来た。

(5) その他：・いいものもよく分からないものもあった。

### I 作品の脇にあるエントリーシート(夢のシート)やキャプションは作品に近づく助けになりましたか (回答数71)

「役立った」(53.5%)、「とても役立った」(39.5%)あわせて93.0%と多くの方に鑑賞のヒントとして役立てていただいたようだ。一方でキャプションの大きさ(A5判)に限りがあり、文字数が多くなると文字が小さくなることもあって、字が小さい、暗い所では読めないなど、ご批判もいただいた。またとらわれたくないで、見ていないなどのご意見もあった。TAKARABUNEのような非常に多彩な展示では、背景を知って初めて伝わるものもあり、簡潔なキャプションを作者自身の言葉で示してもらうのは必要だと思われる。

1 とても役立った 28 (39.5%) 2 役立った 38 (53.5%) 3 あまり役立たなかった 2 (2.8%) 4 役立たなかった 0 (0%) 5 その他 3 (4.2%)

(1) とても役立った：・作家さん、製作者の作品づくりにかける想いにふれられるのは、新たな視点がふえてよかったです。／わずかな言葉からも作品制作の意図を理解する助けになりました。／もっと目の高さに近いところに大きな字で書いて貼ってほしい

(3) あまり役立たなかった：・もう少し文字が大きいと良い。小さくて読みづらい。暗い所のキャプションはほぼ見えない。

(5) その他：・見ていない。あまりとらわれたくない

(数字選択なし)：・作品に吸い込まれ活字を見ることを忘れました。

### J 特に印象に残った作品や応援したい夢などがありましたら、お教えてください。

(以下、先頭の丸数字は出品リストの作品番号、続人数は当該作品を挙げた人数、記載は自由記述欄にあった記載をそのまま記述し、記述が複数人ある場合は「／」で区別した。また同一アンケートに複数の作品が記述されている場合は各作品に振り分けた。)

・① 4名 足澤美香

・② 1名 ダイグラボッチ世界歩行プロジェクト

・③ 2名 錯視陶器

・④ 1名 石上城行氏の『大きなひとのかたちのプロジェクト』のコンセプトがよかった。

・⑤ A 2名 レントゲン写真

・⑤ B 4名 子供たちの作品が素晴らしい、自由な発想と自由な色づかい／じょうろのおうち／ワークショップの横の子供達が作った作品に感動しました。／リサイクル リユース(⑦も)

・⑥ 2名 シミズフローラルデザインスクール

・⑦ 9名 社会芸術ユニット・ウルスをもっと応援したいと思いますね。／野良という自然(豊か)／のらの芸術／野良の芸術／石井さんの竹のマイندもよかった／野良

・⑧ 8名 三友氏の鎌の作品／印象的で素敵でした。／三友周太さんの作品／モビールの光放映の動き、立体に興味

・⑨ 2名 鳥五兄弟のお買い物絵が絵もストーリーもすばらしい!! ぜひ絵本で出してほしいです。すごい!!／ユニコーンさんの作品を違う角度から見ると楽しかったです。

・⑩ 2名 奥の光のアートはいつもきれいですね。大きな作品も小さな作品もとってもきれいで見てあきない。(⑧、⑩、⑯も)

・⑪ 5名 電子音の不思議なミステリー／オルゴールのぜんまいをコントローラーのスティックで表現しようという試みは良い発想だと思いました。あと、ゲージを最大まで上げようとするとスティックが壊れるほど速く回すことになりそうな感触を受けました。／お米の音がおもしろかったです。

・⑫ 10名 写真／写真でいろいろ作品を作っているのがよい／祝甲辰祭のめずらしい写真の作り方に感動しました。／スイングショット／中村元さんの作品、お話が良かった／写真だと思わなかった。色がとてもきれいな組合せでした。

・⑬ 2名 SMFのアーカイヴポスター

・⑭ 4名 西尾さんの作品すてきでした。／西尾さんの作品

・⑮ 5名 初見では「なんと!! ざんしんな!!」と思ってみました。シートを読んで再び見ると、「私は生きる」と自己主張されている力強さを感じました。／はたみきさんの作品を見て製作までの道のりに感動しました。／友人の生き方に感動しました。

・⑯ 4名 ずっと見ていられる

・⑰ 3名 藤井さんたちのコンテンポラリーダンス

・⑱ 6名 水が美しかった、部屋にほしい。／冬のシジュウカラ／M.HONDAさんの『花だけではなく、華を描く』がとても良かった。はじめ写真に手を入れたように見えたが水彩画であった。びっくり!

・⑲ 16名 みょうか氏のくまさん作品／色がきれいでほんわかした気持ちになった。／みょうかさんがいろいろ説明して下さいだったので楽しめました。(くまのきもち)／みょうかさんの和紙で作った作品がかわいらしく素敵でした／ホッとする作品でした／枕とは知らず、人生の重荷をひっぱっていると重い気持ちになりましたが、枕と知り安心／みょうかさんの作品、説明して下さいだったので楽しく向き合うことができました。

・⑳ 2名 黒い絵 光を吸収する黒、説明していただいて、なおさら楽しく見ることができました。／世界一黒い絵

・㉑ 7名 虫の形がとてもきれいになっていたのすごいです。／とても細かい造形の作品で、巨大な虫のオブジェを作るという夢も素敵だな



と思いました。こんなにリアルなオブジェが外に飾られたら、通り過ぎる人全員の目を引いて子供はかけよっていくのではないかと思います。

・㉒ 2名 骨折をすると人間はいろんなことを考えるのですね(私もやりました)、それを作品にすると個性が出て同じ会場に二つあっておもしろかったです。(⑤Aも)／未来のことをもっと知りたいと思いました。

その他・奥の部屋の作品もよかったです／それぞれ見ました。たのしかったです。／素材のハーモニーを楽しみました!!／空間を活かした表現、天井が高い近美ならではと思います。(⑦、⑧、⑭も)／ゲルーが良かった。

### K SMF (サイタミューズフォーラム) やその活動についてご存知でしたか (回答数71)

活動に参加・協力したが昨年の3.0%から8.5%に、知っていたが同7.6%から18.3%と大きく増えた。しかしながら、知らなかった(62.0%)とよく分からない(2.8%)がまだ3分の2近い。SMFの活動についても継続してアピールし浸透を図る必要があろう。

1 活動に参加・協力した 6 (8.5%) 2 知っていた 13 (18.3%)

3 聞いたことがある 6 (8.5%)

4 知らなかった 44 (62.0%) 5 よく分からない 2 (2.8%)

### L その他、TAKARABUNE 2024やSMFについてご意見ご感想、など、ご自由にお書きください。

・プロ、アマチュアの作家それぞれの独創的な発想の作品やプロジェクトを見て、現代美術の豊かさを感じた。／これからもSMFの活動をやってほしいと思います。／楽しく見せていただきました。何回か見ていると楽しみになります。作家さんの成長のようなものも感じてうれしいです。応援しています。／長く続くことを望んでおります。／楽しかったです。／様々なジャンルがあり、楽しかったです。／作者の話が聞けた事は良かった／今後の皆様の活躍を楽しみにしています／夢がある作品とか遊びごころがある作品でたのしかったです。ありがとうございます／続けて下さい。／楽しかった。とても。／作者のお話を直接聞けるので、とても良かったです。／来年も来たいです。／独創の世界を知ってもらう場として貴重です。／小学生から大人の方のユニークな作品に感動しました。ありがとうございます。／良い経験になりました／創造力のすごさに感動しました。ありがとうございます／今年もステキな作品をありがとうございます!／次回を楽しみにしています／多角的かつ視覚だけでなく色々な感性を楽しめる作品が多く、見る人によっていろんなツボに入る作品展だったと思います。作者と受け手で感じ方が違うのもアートの良さだと思います。／素敵な活動をされている方々とお話しできて楽しかったです。ありがとうございます。／ぜひ表現の場をふやして下さい／これからも引き続き頑張ってください!毎回楽しく拝見しています!

貴重なご意見や励みとなるあたたかいお声を多数お寄せいただき、まことにありがとうございました。SMFの今後の活動に活かしてまいります。創る人、観る人、つなぐ人、それぞれの夢を結びながら、未知の水平線を目指すTAKARABUNEの航海は続いて行きます。さまざまな垣根を越えて心豊かに楽しむ場を、ご一緒に作ってまいりましょう。引き続きどうぞよろしくお願いたします。

TAKARABUNE 2024 担当 中村誠

## SMF履歴書

### ■ 幼年期 (PRE SMF 時代)

- 2002年 ヒアシンスハウスをつくる会、発足
- 2004年 ヒアシンスハウス竣工
- 2006年 さいたまアート懇話会
- 2007年 さいたまアートフォーラム研究会

### ■ 少年期

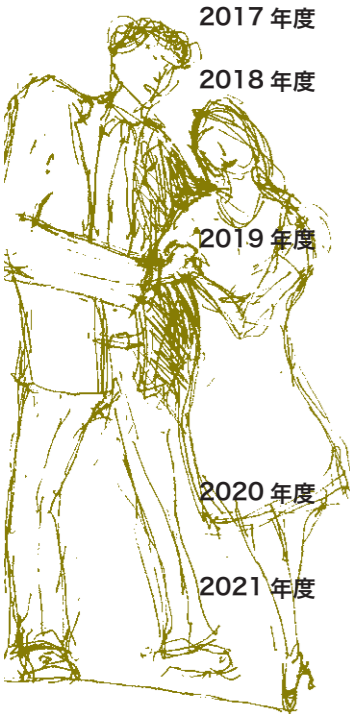
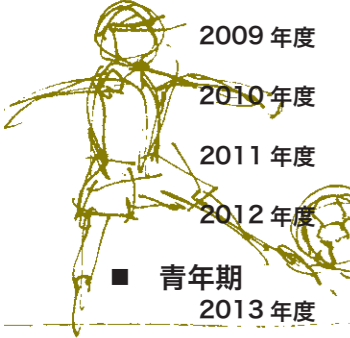
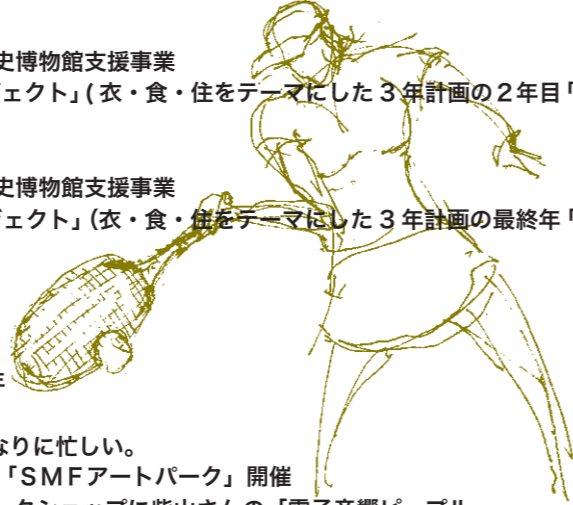
- 2008年度 SMF 発足  
平成 20 年度 文化庁「芸術拠点形成事業」(ミュージアムタウン構想の推進)  
LINK! ミュージアムからアートの風を!!「風の記憶」…… アート竜巻フェスタ 2008
- 2009年度 平成 21 年度 文化庁「美術館・博物館活動基盤整備事業」  
SMF アートのわっ!「風の行方」…… あつまれアートのつむじ風 2009
- 2010年度 平成 22 年度 文化庁「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」  
交差する風 織りなす場「風の軌跡」…… SMF アート楽座・アートバンク 2010
- 2011年度 平成 23 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)  
Saitama Art Platform 形成準備事業「つながる Heart Art」
- 2012年度 平成 24 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)  
Saitama Art Platform 形成準備事業「ひろがる」

### ■ 青年期

- 2013年度 SMF の組織化  
(会則の作成、会員の会費による運営、フォーラムの開催とフォーラムの決議による運営)
- 2014年度 平成 26 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業  
あなたとどこでもアート「小さな家プロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の初年「住」)  
「アート長屋」建設  
「アートのまつり」開催
- 2015年度 平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  
あなたとどこでもアート「着がわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の 2 年目「衣」)  
「アート長屋」入居開始  
「宝船展 I」開催
- 2016年度 平成 28 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  
あなたとどこでもアート「おかわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の最終年「食」)  
「宝船展 II」開催  
さいたまトリエンナーレ 2016 に参加  
「SMF 学校」運営

### ■ 成年期

- 2017年度 組織化された SMF の自立した活動の初年  
「宝船展 2018 @ MOMAS」開催
- 2018年度 親ばなれして自立しようとすれば、それなりに忙しい。  
大宮アートフェスティバル 2018 で「SMF アートパーク」開催  
入間市博物館では SYUTA さんのワークショップに柴山さんの「電子音響ピープル」  
北浦和の商店街に光るきたうらわんが現れたり、ハロウィンで「変身★自分仮面を作ろう」等々  
「宝船展 2019 @ MOMAS」開催
- 2019年度 埼玉県立近代美術館「MOMAS のとびら」参加  
「フワリつばさで鏡の国を飛んでみよう」  
「美術館にぞうが遊びにきたぞう！」  
「化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう！」  
「きたうらわアートウィーク 花・花・花」(北浦和西口ハッピーロード・ふれあい通り) 参加  
さいたま国際芸術祭 2020 公募プログラム「SMF 宝船展 2020」開催  
宝船展 ON THE NET/ 宝船展 @雲をつかむ / 宝船展 @ MOMAS  
(宝船展 @ MOMAS はコロナ禍による埼玉県立近代美術館閉館により残念ながら中止)
- 2020年度 令和 2 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業「SMF with コロナ」開催  
アート寺子屋 / アート井戸端 / 宝船展@アート長屋  
「宝船展@ MOMAS 2021」(くもをつかむ) 開催
- 2021年度 令和 3 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業  
「SMF アートコロニイプロジェクト-ヒアシンスハウス編」開催  
埼玉県立近代美術館 MOMAS のとびらに協力  
「和紙を貼って貼って○ランプ! □ランプ!」  
入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力「身近なもので楽器(カホネレ)を作ろう！」  
「宝船展@ MOMAS 2022」(くもをたがやす) 開催
- 2022年度 入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力「『ひみつのたまご』をつくろう！」  
令和 4 年度 社会とつながる文化芸術活動助成事業「アートの素・パントリー」開催  
「TAKARABUNE 2023」(夢のかけらをくもにまく) 開催
- 2023年度 「TAKARABUNE 2024」(漕ぎ出したアートのまつり) 開催



## 漕ぎ出したアートのまつり……変化の波を乗り越え来年のTAKARABUNEへ

SMFの母胎ともいえるヒアシンスハウスは、テレビで紹介されたおかげで、来場者がいつもの10倍だという賑わいをみせています。負けじと頑張った(?)このTAKARABUNE、昨年よりも100名を超えた方々に観ていただくことができ、その数もさながら、毎日行なったアーティストトークがすっかり定着し、創る側と観る側との交流から一段と活気溢れて漕ぎ出したアートのまつりになりました。

そのアーティストトークでの一場面。

用意したメモを読んでご自身の作品を紹介し終わったある作家が、その6枚のメモを、展示した作品の傍らの壁に貼り、すると、それらがキャプションを超え新たな吹出しへと様変わりし、次に移ろうとした観衆の足を引き留めた、そんなシークエンスが強く印象に残りました。

ほかが生業としている建築の分野には技術の側面があり、それはもう少しアートよりのデザインでも同じでしょう。技術なので目的を持ち依頼者がいます。目的はその時々で変わり、依頼者は気まぐれです。だからそれらの変化に応じられてこそ社会や依頼者によりそうことになり市民権が得られる、言い換えればみんなから役に立つと認

められるようになるのです。それでも古い頭の何処かには、自分の作品にアートのような永遠性を望む本音も燃っています。

ときどきアートが認知され普及するためとその役割が話題に上ります。しかし建築がそうだったように、もしかすると変化をどのように受容できるかということがその鍵になると思います。

その変化は環境や受け手側からだけではなく作家自らも産み出すことができるのだと、あのアーティストトークから知り、ホワイトキューブの中では決して起こり得ない臨機応変が、幼年期からワークショップやパフォーマンスの一期一会で鍛えられてきたSMFだからこそ得意技になっていたことに気づきました。

これからも相対的な世界観の間から生じるさまざまな変化の類の波を、どのように漕ぎ分けて進むのか、それが船出したTAKARABUNEの課題になるかも知れません。そして来年はいっばいになった前頁の履歴書を破って熟年期に突入するわたしたちSMFの、さらなるお家芸にとブラッシュアップされているかも知れません。

そんな予感、折しも上の階でAbsoluteと冠し椅子を主題にした企画展が開催されているでしょう。 三浦清史(SMF代表、建築家)

### TAKARABUNE 2024「漕ぎ出したアートのまつり」

会期:2024年3月27日~3月31日  
会場:埼玉県立近代美術館 地階一般展示室1  
主催:SMF(サイタマミュージアムフォーラム)  
会場レイアウト:長野恒  
会場運営:各出展者、ワーキンググループ、東京電機大学柴山研究室

### TAKARABUNE 2024「漕ぎ出したアートのまつり」ワーキンググループ

加藤典子、柴山拓郎、長田淳一、長野恒、中村隆、中村誠、長谷川千賀子、三浦清史、三友周太、みゃうか、森久憲生、吉田富久一、李函錫(LI HANXUN)

### TAKARABUNE 2024「漕ぎ出したアートのまつり」記録集

発行:SMF(サイタマミュージアムフォーラム)  
http://www.artplatform.jp (SMFホームページ)  
http://www.artnagaya.jp (SMFアート長屋)

編集:中村誠、三浦清史  
デザイン・印刷:有限会社アームズ(中村隆)  
記録撮影:中村元  
写真提供:各出展者、石崎幸治、菱田祐一郎、中村隆、中村誠  
2024年6月9日発行



## SMFのミッションと入会のご案内

SMFは、既成のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画し、アートをめぐって多くの人がつながっていくためのプラットフォームです。

SMFは、さまざまな生き方をしてきた人が集い、触発し合いながら、まだ見たことも聴いたことも経験したことのないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指して活動します。

SMFは、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとし、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域のメンバーがともに活動し、そのための事業を企画し開催します。

身近な場所でアートを享受し、支援し、再創造するSMFの活動をご一緒に楽しみませんか?

ご興味をお持ちの方は、smf.info@artplatform.jpまでお問い合わせください。

2008年以降の活動記録はSMFホームページ  
http://www.artplatform.jp からご覧ください。



▲風をはこぶ(風車のインスタレーション) 2008



▲体感する美術 2010 (SMFアート楽座より)



▲旅する小さな家プロジェクト@ヒアシンスハウス前庭 2014



▲MOMAS空間音響ライブ 2009

# ART KARABUNNE 2024

<http://www.artplatform.jp>

